

- 五十三番 中村 弘毅
- 五十四番 渡 正元
- 五十七番 上杉 茂憲
- 六十一番 伊東 祐賢
- 六十二番 西 周
- 六十三番 橋口 兼三
- 六十五番 大久保一翁
- 六十六番 永山 盛輝
- 六十七番 伊集院兼寛
- 六十九番 加藤 弘之
- 七十一番 山口 尚芳

- 七十二番 坂本 政均
- 七十三番 鍋島 直彬

午前第九時四十分開場

○議長 第五百二十三號第五百二十四號及ヒ第五百二十五號三議案
 ノ檢視會ヲ開ク先ツ第五百二十四號議案ヨリシテ順次ニ次號ノ議
 案ニ及ハン但第五百二十四號議案ハ條數多キヲ以テ朗讀ハ通牒文
 ニ止ム

書記官 森山 茂 朗讀

本年七月三十日議定相成候登記法更ニ修正ヲ加ヘ便宜公布ノ後其
 院檢視ニ付ス

明治十九年八月十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

元老院議長伯爵大木喬任殿

左案ハ朗讀セサリシモ參照ニ便セン爲メニ此ニ附載ス

朕登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年八月十一日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

內務大臣伯爵山縣有朋

大藏大臣伯爵松方正義

司法大臣伯爵山田顯義

法律第一號

登記法

第一章 總則

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ヲ請ントスル者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ

第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督ス可シ

第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム

第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ

受クルモノトス

第六條 登記簿ニ登記ヲ爲サ、ル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付キ登記ス可キ概目左ノ如シ

第一 地所ハ郡區町村名字番地地目反別若クハ坪數地券面ノ價格

第二 建物ハ郡區町村名字番地地目構造ノ種類建坪造作ノ有無

第三 西洋形船舶ハ汽船風帆船ノ區別船名番號登簿噸數公稱馬力汽機及汽罐ノ種類端船其他必要ノ所屬品

第四 日本形船舶ハ船名番號積石數間數端船其他必要ノ所屬品

第五 登記ノ事由

第六 金額

第七 質入書入ハ其期限及利息

第八 所有者及登記ヲ受クル者ノ氏名住所

第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ヲ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實

第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノヲ書入ト爲ストキハ其事實

第十一 登記ノ年月日

第八條 登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏直ニ前條ノ概目ヲ審査シテ登記簿ニ登記シ本人ニ之ヲ示シ又ハ讀聞セタル上本人ヲシテ署名捺印セシメ且之ニ署名捺印ス可シ

第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ

前項ノ記入ハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第十條 登記ハ第十五條第二項及第十六條第十七條第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

第十一條 登記ノ謄本又ハ拔書又ハ一覽ヲ要スル者ハ其登記所ニ出頭シテ之ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 登記官吏ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム

第二章 賣買讓與

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

前項ノ場合ニ於テ其物件質入書入中ニ係ルトキハ買受人讓受人ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ

第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示スコシ

死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留シタル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬又親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示スコシ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札達書及其代金完納ノ證書ヲ示スコシ

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ達書ヲ示スコシ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ

第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲スコシ

第二十條 地所船舶賣買讓與ノ登記ヲ受ケ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請ントスル者ハ登記所ヨリ登記濟ノ證ヲ受ク可シ

第三章 質入書入

第二十一條 地所建物船舶ノ質入書入ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示スコシ

貸借ノ爲メニ非スシテ義務ヲ果スコキ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ質入書入ト爲シ其登記ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重ネテ書入ト爲ストキハ第二
 債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リ
 タル地所ヲ質入ト爲シ又ハ質入ト爲リタル地所ヲ書入ト爲スト
 キ亦同シ

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付
 キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ
 其登記ヲ請フ日時ノ前後ニ因リ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手數料

第二十五條 地所建物船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ賣買
 代價ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ヲ納ム可シ

賣買代價	登記料
五圓未滿	五錢
拾圓以上 拾圓未滿	拾錢
拾圓以上 貳拾五圓未滿	貳拾五錢
貳拾五圓以上 五拾圓未滿	五拾錢
五拾圓以上 百圓未滿	壹圓
百圓以上 貳百圓未滿	貳圓
貳百圓以上 三百圓未滿	三圓
三百圓以上 四百圓未滿	四圓
四百圓以上 五百圓未滿	五圓
五百圓以上 七百五拾圓未滿	六圓

七百五十圓以上
千圓未滿

七圓

千圓以上
千五百圓未滿

八圓

千五百圓以上
貳千圓未滿

九圓

貳千圓以上
五千圓未滿

拾圓

五千圓以上
壹萬圓マテ

拾貳圓

以上五千圓マテ毎ニ貳圓ヲ増加ス

第二十六條 地所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ

第二十七條 地所建物船舶質入書人ノ登記ニ付テハ其質入人書人ハ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ

半額ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第二十八條 第二十一條第二項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第九條第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マラサル物件ハ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ

第二十九條 第十五條ノ登記ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納ム可シ但一件ニ付キ金五錢ヨリ下スコトヲ得ス

第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ム可シ

第一 登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一件

第二 登記ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者ハ每一枚

第三 登記ノ一覽ヲ請フ者

第三十一條 左ニ掲クルモノハ登記料及手数料ヲ要セス

第一 官廳ノ請求ニ係ル登記

第二 公立ノ學校病院、公園及養育院ニ係ル登記

第三 社寺、堂宇及墳墓地ニ係ル登記

第四 人民共有ノ用惡水路溜池敷、堤敷、井溝敷及公衆ノ用ニ

供スル道路ニ係ル登記

第三十二條 登記所ニ於テ第二十五條第二十六條第二十八條第二

項及第二十九條ニ從ヒ届出タル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其

事件ニ關係ナキ者三名ヲ選ヒ之ヲ評價人ト爲シテ其價格ヲ評定

セシム可シ

第三十三條 評價人ノ評定シタル價格届出ノ價格ヨリ増加スルト

キハ其評價ニ關スル費用ハ其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔ス可シ

若シ其價格届出ノ價格ト同價又ハ低下ナルトキハ該費用ハ其登

記所ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十四條 評價人ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭

スルコトヲ得ス

第三十五條 評價人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金貳拾錢ヨ

リ五拾錢マテヲ給ス可シ

第五章 罰則

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及之ニ通謀シタル

者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 本法ニ依リ罰金ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

附則

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶賣買書入質手續同十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則同十四年第三十號布告地券證印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾鍬下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記所ノ登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ

登記ヲ請フ者ハ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ戶長ノ證書ヲ以テ其所有者タルコト及其物件ニ故障ナキコトヲ示ス可シ
第四十一條 本法ハ明治二十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長 本案ヲ明備ナリト思考スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ明備ナルニ決シ第五百二十四號議案ニ移ル同案モ條數多キヲ以テ朗讀ハ通牒文ニ止ム

書記官 森山茂 朗讀

本年七月二十八日議定相成候公證人規則更ニ修正ヲ加ヘ便宜公布ノ後其院檢視ニ付ス

明治十九年八月十三日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

元老院議長伯爵大木喬任殿

左案ハ朗讀セサリシモ參照ニ便セン爲メニ此ニ附載ス

朕公證人規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年八月十一日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

司法大臣伯爵山田顯義

法律第二號

公證人規則

第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ル

ヲ以テ職務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作りタルトキハ公正ノ効ヲ有セス

第三條 公證人ノ作りタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルカアルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキ

ハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受ク可シ

已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求メアレハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出ス可シ

前項ノ印鑑ヲ差出サ、ル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第十一條 公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコト

ヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ某始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル罫紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第六 謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳 日々授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡スコカラス

第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩ス可カラス

第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ件ヤヲ具備スルヲ要ス

第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ル、事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代言人ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐偽罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クモ二箇月前ニ告示ス可シ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條 公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄始審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書代言人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識ア

ルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戸長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知り面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件ヤヲ記載ス可シ

- 第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢
- 第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢
- 第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢
- 第四 郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢
- 第五 證書ヲ作りシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス
- 第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ
數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸漆捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量、名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

既ニ廢シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣、曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ

末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加、改正、消字ノ効ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作りタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ

公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ

其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連綴ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證

券ノ支辨ニ限り權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作りタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末尾

并ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作りタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始審

裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ

管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル
公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可キコトヲ命スルコトアル
可シ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ未
尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有
セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト
同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ
之ヲ渡ス可シ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證

人署名捺印ス可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業
氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡
シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル
旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出帳

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出
シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及
第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ
第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續

ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ
受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記ス可シ

本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フト
キハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職
務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滯留スルトキ
ハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料
ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ罫紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之
ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ
第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラ
ス管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於テ
第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可
シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處
ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サ、リシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ノ第四項ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルト

キハ管轄控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停

止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大

臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身元保證
金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシ
メタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

○議長 本案ヲ明備ナリト思考スル者ハ起立セヨ
起立者三十九人

○議長 多數ナルヲ以テ明備ナルニ決シ第五百二十五號議案ニ移ル
書記官 森山 朗讀

朕裁判所位置及管轄區畫表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム

御名 御璽

明治十九年八月二十四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第六十二號

明治十六年^一第二號布告裁判所位置及管轄區畫表中左ノ通改正ス

栃木始審裁判所ヲ宇都宮ニ移シ宇都宮始審裁判所ト改稱ス

栃木始審裁判所宇都宮支廳ヲ栃木ニ移シ宇都宮始審裁判所栃木
支廳ト改稱ス

栃木始審裁判所管内栃木治安裁判所管轄郡名中^上都賀トアルヲ
^下改メ寒川安蘇築田足利ヲ併テ宇都宮始
(上都賀ノ内、下都賀)ト改メ

審裁判所栃木支廳管内栃木治安裁判所ノ管轄トス

栃木始審裁判所宇都宮支廳管内宇都宮治安裁判所管轄郡名中河

内ノ上(上都賀ノ内)ノ五字ヲ加ヘ河内芳賀鹽谷那須ヲ併テ宇都

宮始審裁判所管内宇都宮治安裁判所ノ管轄トス

新潟始審裁判所管内新潟治安裁判所管轄郡名中西中蒲原トアルヲ

南(西)中蒲原、南蒲原ノ内)ト改ム

新潟始審裁判所長岡支廳管内長岡治安裁判所管轄郡名中(南蒲原ノ内)ノ五字ヲ加フ

大阪始審裁判所管内天王寺治安裁判所ノ管轄タル東區ヲ中ノ島治安裁判所ノ管轄ニ改ム

大阪始審裁判所管内中ノ島治安裁判所管轄郡名中西成ノ下(ノ内木津川以西)ノ七字ヲ加フ

大阪始審裁判所管内天王寺治安裁判所管轄郡名中(西成ノ内木

津川以東)ノ九字ヲ加フ

○議長 本案ヲ明備ナリト思考スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ明備ナルニ決シ三案共ニ檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ遵ヒ上奏セン散會セヨ

午前第九時五十分閉場

元老院會議筆記 明治十九年十月十九日

禁傍聽

此日午前第九時三十分第五百二十七號議案整理公債條例第一讀會ヲ開カントス
因テ大藏大臣伯爵松方正義本院ニ臨ミ各議官ニ對シテ整理公債ヲ發行スル要領
ヲ説明セリ其説明タル本案制定ノ理由ヲ述ル者ナルヲ以テ參照ノ爲メニ此ニ載

録ス

大藏大臣曰ク本日ハ整理公債證書條例案ノ議事ヲ開クト聞ク因テ
開議ニ先タチ簡短ニ此條例ヲ發布スル旨趣ヲ陳ン即チ其主眼ヲ
約言スレハ新タニ五分利附ノ公債ヲ募集シテ以テ六分以上利附
ノ公債ヲ償還スルニ在リ今先ツ現存セル公債ノ數額ヲ開陳セン
ニ國債ノ總額ハ貳億六千八拾貳萬貳千六百九圓ニシテ是レ即チ
十九年度歲首ノ未償還額ナリ此總額中五分利附以下ノ公債及ヒ

期限ノ變更シ難キ公債八千五百六拾壹萬九千貳百六拾九圓ニシ
テ此内五分利附以下ノ公債六千八百九萬七千貳百三拾七圓ト別
ニ特約ニ係ル六分以上利附ノ外國公債及ヒ征討費トシテ第十五
國立銀行ヨリ借入タル金額合セテ壹千七百五拾貳萬三千三拾貳
圓アリ故ニ今日ヨリ漸次ニ借換セント欲スル公債額ハ壹億七千
五百貳拾萬三千三百四拾圓ナリ抑モ今日市場ノ景況ヲ察スルニ
金利ハ漸ク低落シ各銀行預金ノ利息ハ百分ノ三乃至四ト爲リ政
府ヨリ發行セシ公債證書ノ時價ノ如キ六分以上利附ハ額面ヲ超
過シ中山道鐵道公債證書ハ一時百拾五圓ノ時價ヲ占メ曩ニ募集
セシ五分利附海軍公債證書ノ如キモ百圓以上ノ價格ヲ以テ募集
スルヲ得タリ此レ實ニ財政上ノ好時機ナルヲ以テ政府ハ此時機

ヲ失セス負債ヲ借換スルノ計畫ヲ施行セサル可ラス顧フニ國家
ノ負債ニ關シテ最モ望慮ス可キハ利息ノ高貴ナルニ在リ元金ノ
如キハ必シモ年年償還スルヲ要セサルモ利息ハ毎年支出スル者
ナレハ爲メニ財政ニ關係ヲ及ホスヤ鮮少ナラス故ニ利子ヲ低減
スルハ即チ國庫ニ餘贏ヲ與ヘ隨テ納稅者ノ負擔ヲ輕ムルモノニ
シテ實ニ方今ノ急務ト謂フ可シ而シテ此ノ如ク公債ノ利子ヲ低
減スル爲メニ贏得スル所ノ金額ハ務メテ國債償還ノ一途ニ供ス
ルヲ緊要ナリトス又其公債借換ノ計畫ヲ略說センニ七分ノ利子
ヲ五分ト爲セハ壹億萬圓ニ付キ貳百萬圓許ノ餘贏ヲ生シ六分ノ
利子ヲ五分ト爲スモ百萬圓ノ餘贏ヲ生スル割合ナレハ其利益モ
亦タ大ナリト謂フヘシ然レモ此計畫タル一大難事ニシテ一朝ニ

實効ヲ奏ス可キニ非サルヲ以テ本案ヲ立草スル以前ニ歐米ノ事
例ヲ詳細ニ調査セシニ英國ニ於テハ一千八百二十二年ヨリ一千
八百五十四年ニ至ルノ間ニ前後六回ノ公債借換ヲ施行シテ利子
ヲ低減セシ爲メニ毎年殆ント壹千八百五拾萬圓ノ餘贏ヲ生シ米
國ニ於テハ一千八百七十五年已來數次ニ四分利附及ヒ三分半利
附ノ公債ヲ發行シテ六分利附及ヒ五分利附ノ公債ヲ償還シ毎年
貳千貳百萬弗ノ利子支出額ヲ減少セリ佛國ニ於テモ屢ハ此償還
法ヲ施行シ一千八百五十二年ノ舉ノ如キハ一年ニ壹千七百五拾
萬フランクノ剩餘ヲ得タリト云フ此ノ如ク歐米文明諸國ニ於テ
ハ借換法ニ因テ公債償還ノ計畫ヲ爲ササルハ無シ我邦ノ公債法
ハ固ヨリ各國ノ成例ニ參照シテ施行セル者ナレハ其減少ヲ謀ル

ニモ亦宜ク歐米ニ則トルヘシ本年モ佛蘭二國ニ於テハ公債ノ借
換ヲ施行セリト聞ク然レハ則チ政府ノ財務ヲ司ル者ノ市場ノ景
況ヲ觀察シテ此方策ヲ施行スルハ納稅者ニ對スル政府ノ一大義
務ヲ盡スモノト謂フ可シ又此整理公債ノ年限ヲ五十五年ト定
メタルハ稍ヤ長キニ過ルニ似タルモ若シ期限甚タ短カケレハ人
民反テ危疑ノ念ヲ懷カンコトヲ慮リ之ヲ延ヘタリ顧フニ今日人民
ノ其期限ノ長キヲ欲スルハ之ヲ市場ノ景況ニ照シテ顯然ナリ歐
米文明諸國ニ於テ發行スル公債ハ無期公債ヲ多シト爲スモ我邦
ノ如キハ其事ニ通曉スル者未タ多カラサレハ無期公債ヲ發行ス
ルハ時機尙ホ早シト思考ス他日必ス無期公債ヲ發行スル時機ニ
會ス可キモ目今ハ先ツ有期ト爲スヲ要スルナリ整理公債ヲ發行

スル計畫ノ要領此ノ如シ終ニ臨ミ一言ス可キ有リ本案ハ商況ニ
巨大ノ關係ヲ有スレハ時日ヲ費サス速カニ議決センコトヲ欲ス既
ニ一昨日マテハ中山道鐵道公債ノ市價ハ百拾四圓ナリシニ昨日
ニ至テハ百拾貳圓ニ低落セリ拾四圓ヨリ拾貳圓ニ下ルハ其變動
亦大ナリ此際ニ於テハ投機者輩ハ種種ノ奸策ヲ施ス無キヲ保タ
ス是レ速ニ決定ヲ要スル所以ナリ尙ホ本案ニ疑義ヲ存セハ質問
セヨ之レ無ケレハ直チニ第一讀會ヲ開カンコトヲ望ム

議長大木喬任曰ク若シ本案ニ疑點アレハ大藏大臣ニ質問セヨ若シ
疑點ナケレハ第一讀會ヲ開カン

議官尾崎三良曰ク少シク質問セン大藏大臣ノ説明ニ因テ整理公債
ヲ發行スル理由ヲ領會ス即チ本案ノ主旨ハ壹億七千五百萬圓ノ

高利ノ公債ヲ償還セント欲スルニ在リ而シテ其發行方法ハ第二
條ノ明文ニ掲ル如ク政府ノ便宜ヲ計リ二年又ハ三年ノ間ニ臨機
募集スルナランモ其期限ハ大抵幾許年ナルヤ又彼ノ中山道鐵道
公債證書ハ五ケ年据置キ三十年間ニ償還スル方法ナルハ其條例
ニ明掲ス然ルニ只今ノ説明ノ如クナレハ其五ケ年据置ノ約束ハ
自ラ消滅スルカ如シ是レ本官ノ疑點ノ存スル所ナリ更ニ之カ説
明ヲ乞フ

大藏大臣曰ク整理公債募集ノ期限ハ大凡ソ六ケ年間ト爲スモ市場
ノ景況等ニ因テ年數ヲ短縮スルヤヲ知ル可ラス中山道鐵道公債
ハ其條例ニ示ス如ク五ケ年ハ必ス之ヲ据置クナリ決シテ約束ヲ
取消シテ信用ヲ破ルコト無シ

議官林友幸曰ク大藏大臣ノ説明ニ因テ本案ノ旨意既ニ明瞭ナレハ速ニ開會センコトヲ請フ

議長大木喬任曰ク大藏大臣ニ告ク引續キ會議ヲ開カントス傍聽スルト否トハ適宜ニ任ス

大藏大臣曰ク之ヲ領ス

大藏大臣退テ傍聽席ニ著ク

元老院會議筆記

○第五百二十七號議案 整理公債條例 第一讀會

議長 大木喬任

出席議官

一番 山口 尙芳

三番	鍋島 直彬
四番	楠本 正隆
五番	榎村 正直
六番	林 友幸
七番	西 周
八番	長松 幹
九番	中島 錫胤
十一番	渡邊 清
十二番	久我 通久
十三番	清岡 公張
十四番	加藤 弘之

十五番	渡邊 驥
十七番	本田 親雄
十八番	神田 孝平
二十一番	福原 實
二十四番	小畑 美稻
二十五番	永山 盛輝
二十六番	尾崎 三良
二十七番	海江田信義
二十八番	黒田 清綱
三十一番	田邊 太一
三十二番	三浦 安

三十三番	伊集院兼寛
三十五番	原田 一道
三十八番	津田 眞道
三十九番	楫取 素彦
四十四番	安藤 則命
四十五番	長岡 護美
四十六番	大久保一翁
四十七番	河田 景與
四十八番	町田 久成
四十九番	伊丹 重賢
五十一番	中村 弘毅

- 五十二番 何 禮之
- 五十三番 岡内 重俊
- 五十四番 調所 廣丈
- 五十五番 大給 恒
- 五十六番 宮本 小一
- 五十八番 東久世通禧
- 五十九番 渡 正元
- 六十番 中村 正直
- 六十一番 稅所 篤
- 六十二番 壬生 基修
- 六十六番 神山 郡廉

内閣委員 番外 法制局参事官岩崎小二郎

午前第十時開場

○議長 第五百二十七號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

整理公債條例

第一條 整理公債ハ從前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理スルカ爲メニ募集スルモノトス

第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓千圓五百圓百圓五拾圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第五條 整理公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

○一番山口尙芳 建議ヲ爲ス本案ノ大體ハ既ニ明白ナルモ各條ニ就テハ猶ホ質問ヲ要ス可キヲ以テ第一讀會ハ朗讀ヲ省キ時間ヲ徒費セシメサルヲ欲ス

○議長 一番ノ建議ハ事宜ニ適スト思考スレハ之ニ從ハン

第六條以下ハ朗讀ヲ爲ササリシモ參觀ノ爲メニ此ニ附載ス

第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募申込日限應募

金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第七條 整理公債應募高每期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス

第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ公債證書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス

第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向五十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々

大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲナストキハ日本銀行本店ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額面三拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得

抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ當籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等ヲ廣告セシムルモノトス

第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス

第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月

分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ截斷シテ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過クレハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間ノ日數ヲ算セス

第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戸長ノ奥書ヲ受ケ證書ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由

シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ證スル戸長ノ奥書ヲ受ケ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺旨ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受クルモノアルトキハ右相續人ヲ以テ保證人トナシ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有權他ヘ移轉シタルトキ其引受人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添ヘ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若クハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ届出代證書若クハ代利札ノ交付又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ大藏省ハ其消滅ノ證跡明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書若クハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルモノハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ヘシ其發見ノ時亦同シ

前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ但廣告料ハ届出人ヨリ納メシムルモノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ之カ支拂ヲ見合スヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スルモノアルトキハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ紛失利札其支拂期限ヨリ滿四箇年ヲ過キ猶ホ發見セサルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限ヲ過キテ紛失證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ届出人ニ對シテノミ起訴ノ權アルモノトス

第二十六條 紛失證書ノ當籤ハ無効ノモノトス
第二十七條 整理公債證書ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ鑒別シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付シ鑒別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキ第十六條第十七條第十八條第十九條ノ名前書換ノトキ第二十條第二十四條第二十五條第二十七條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ變更スルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ相當ノ手数料ヲ本人ヨリ納メシムルコトヲ得

第二十九條 第二十條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造費發行費及募集初年ノ利子ハ募

集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○外 一番 岩崎小 例ニ依リ本案ノ旨意ヲ陳述ス可キモ既ニ大藏大臣ノ詳細ナル説明ヲ經タレハ更ニ本員ノ陳述スル有ルモ固ヨリ大臣ノ説明ノ十分一ニタモ及ハス徒ヲニ蛇足ヲ添シノミ故ニ本案ノ旨意ニ關シテハ沈黙ヲ守ラント欲ス但其條項頗ル多キヲ以テ質問モ隨テ少カラサル可キモ本案ハ主務省ニ於テ廣ク各國ノ方例ヲ調査シ又二十年來我邦ノ公債發行ニ經驗セシ所ヲ考ヘ參酌折衷シテ以テ立稿シタルナレハ固ヨリ不完全ノ法案ニ非サルヲ證スルニ足ル

只今主務大臣モ言ヘル如ク本案ハ市場ノ景況ニ關シ其發布ニ寸時ヲ争フ者ナレハ成ル可ク速ニ議決スルヲ欲ス因テ聊カ一言ヲ附ス

○一番山口尚芳

本案ハ首ヨリ尾マテ一ノ缺漏ヲ見ス實ニ善美ノ法案ト

謂フ可シ且今ノ時ニ當リテ此公債ヲ發行スルハ固ヨリ輿論ノ贊同スル所ナラン但聊カ質問ヲ要ス是レ一ニハ自己ノ記得ノ爲メニシ一ニハ政府ノ信用ノ爲メニスルニ在リ顧フニ現今ノ公債ハ悉ク有期ニシテ二十五年間ニ償還スル者ナルモ有期ニ二様ノ方法アリ年期ノ長キ短キ即チ是レナリ若シ有期ト爲ストキハ寧ロ其長キヲ宜シトス何ソヤ日本人民ノ狀況タル公債ノ利子ヲ以テ過活スル者頗ル多シ故ニ急劇ニ資本金ヲ運轉シテ利ヲ獲ント欲スル者ヲ除クノ外ハ縱令ヒ利子ノ低下ナルモ償還年期ノ長キヲ望マン然ルニ其期

限ヲ長クシテ五十年ト爲スモ政府ノ便宜ヲ以テ卒然ニ償還年期ヲ縮ムル如キ有ラハ彼ノ公債ノ利子ヲ以テ過活スル者ハ爲メニ大ニ失望セサルヲ得ス無期公債ナレハ今日之ヲ募リテ明日之ヲ償還スルモ可ナレトモ有期ニシテ其年限ヲ變改セハ財主爲メニ生計ノ目的ヲ誤リ各其心ヲ安ニスル能ハス隨テ政府ノ信用ヲ薄弱ナラシメントス大藏大臣ノ説明セシ如ク英米諸國ニ於テ數回變換ヲ行ヘル公債ハ皆是レ無期ノ者ナリト覺フ然ルニ有期公債ニシテ無期ト同一ノ處分ヲ爲スモ事ニ於テ障害ヲ致ササルヤ否ヤ

退席

二十七番

海江田信義

○一番岩崎小外二郎

質問ノ要點ハ有期公債ニシテ其期限ノ未タ到達セ

サルニ悉ク之ヲ償還スルハ歐米各國ニ的例アリヤ否ヤト云フニ在

ラン此件ハ未タ何年ニ何國ニ於テ施行セシヤヲ證明スル能ハサルモ既ニ大藏大臣ノ説明セラレタル如ク有期ト無期トハ一國ノ信用ノ厚薄ニ關スル者ニシテ其外國公債ハ大抵有期ナルカ如シ顧フニ一國ノ財政整理スルトキハ人民ヨリ政府ニ金ヲ貸スニハ大抵無期公債ト爲スヲ得ルナリ歐米各國ニ於テモ最初ハ率子有期公債ナリシト記憶スルモ此等ノ有期公債ハ必シモ償還期限ノ到來スルヲ俟タス市場ノ金利ノ景況ヲ察シテ之ヲ變換セルニ似タリ而シテ其變換タル名ハ變換ナルモ其實ハ一旦舊債ヲ償還シテ更ニ新債ヲ募集スルナリ現ニ金祿公債ノ如キハ大藏省ノ便宜ニ依リ十年又ハ十五年內ニ償還スル方法ニシテ今回ノ處置ハ即チ舊債ヲ償還シテ新債ヲ募集スルノミ今夫レ百圓ニ付キ五圓ノ利子ト爲シ五十年間過活

スル目的ヲ定メタルニ變シテ三圓ノ利子ト爲ルトキハ孤兒寡婦ノ如キ處世ノ才力ニ乏シキ者ニハ尤モ不幸ヲ與フ可キモ政府ノ財政上萬已ムヲ得サルナリ況ンヤ此方法ヲ以テ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルノ好結果ヲ收ムル有ルヲヤ

○二十六番^{尾崎三頁} 本案ノ發布ハ現今ノ財政上ニ必要ナル固ヨリ明ラカナリ然レトモ一個人ニ對シテハ其影響ヲ及ホス極メテ大ニシテ爲メニ政府ノ信用ニ關係シ公債ヲ整理セント欲シテ却テ弊害ヲ招クヲ恐ル故ニ多少ノ修正ヲ加ヘ以テ政府ノ財政人民ノ家計共ニ其宜キヲ得セシメサル可ラス一番議官モ云ヘル如ク政府既ニ三十年ノ期限ヲ以テ公債ヲ發スレハ人民モ亦其目的ヲ以テ家計ヲ立ルハ固ヨリ論ヲ待タス然ルニ今俄ニ之ヲ縮メテ三年又ハ五年ノ間ニ償

還スト爲セハ其民間ニ反響スル利害ハ果シテ何如ソヤ歐米諸國ノ事實ニ徴スルニ米國ノ如キ屢ハ新債ヲ舊債ニ變換セシ例ハ之レ無キニ非サルモ是レ南北交戦ノ時ニ募集セシ舊債ニシテ其期限ハ十五年又ハ二十年ナリ而シテ之ヲ變換セルハ概ネ其償還期限ノ近接スルトキニ於テ施行シタリト聞ケリ又英國ニ於テ三分利附公債ヲ二分五厘利附公債ニ變換セシコト有リシモ是レ人民ノ希望ニ應シタル者ニシテ決シテ強テ變換ヲ催カシタルニ非ス且其新債ノ價格ヲ百拾圓ト爲シ而シテ之ヲ償還スルニハ百圓ニ付キ拾圓ヲ増付スル約束ヲ以テセリ然ルトキハ政府ハ百圓ニ付キ拾圓ヲ増支スルモ是レ素ヨリ元金ニシテ只一回ノ交付ニ止マリ而シテ其年年ノ支出ハ貳圓五拾錢ト爲レハ貳拾五錢ヲ減少スルヲ得テ財政上大ニ餘裕

ヲ生シタリ我邦ノ公債方法ハ何ケ年間ハ据置キ何ケ年間ニ拂戻スト爲スニ在リ是レ素ヨリ大藏省ノ便宜ニ從フ者ナランモ明治十二年ノ頃ニ減債方法ヲ定メテ之ヲ公布シ大藏省ノ告示ニ於テモ減債方法ニ據ル等ノ文字ヲ記スルヲ以テ之ヲ觀レハ其減債方法ハ人民ト對約セルニ非スト雖モ我邦ノ慣例ニ於テ自ラ確約ノ存スル有リ然レハ當初政府ニ於テモ二十年又ハ三十年ノ間ニ公債ヲ償還スル目的ハ夙ニ固定セシニ似タリ然ルニ今其約ヲ廢シテ僅僅五六年ノ間ニ悉ク償還セント云フハ政府ノ信用ニ關スル無キヲ得ンヤ此ノ如クナレハ其新債ヲ起スニ方テモ人民ハ今年加入スルモ來年償還セラルルヤヲ懼レ其募集ニ應スル必ス少ナカル可シ公債證書條例ノ文面ニ依レハ大藏省ノ都合ヲ以テ明治三十九年マテニ償還ス

ト云フニ在レハ其年限ニ達スルマテハ多少留存スル精神ナルニ今
 俄カニ悉皆之ヲ償還スルハ理ニ適ハス然ルモ是レ彼此變換スルノ
 ミ償還スルニ非スト曰ハンカ七分利附公債ヲ五分利附公債ト爲ス
 ナレハ既ニ已ニ前約ニ違ヘリ況ンヤ其年限ヲ變改スルニ於テヲヤ
 又其年限ヲ變改セスト云フハ三十年ヲ延ヘテ四十年ト爲サスト云
 フニ在ンモ之ヲ縮ムル亦同シク人民ニ困惑ヲ及ホス無キヲ得ス殊
 ニ金祿公債ノ如キハ士族ノ家祿ノ變形物ニシテ自ラ他ノ公債ト其
 性質ヲ異ニシ今日僻郷ニ住スル士族等ハ賴テ以テ過活スル者尙ホ
 多シトス然ルニ金祿公債ノ七分及ヒ六分ノ利子ヲ變シテ五分ト爲
 セハ其家計ニ變動ヲ起スハ事理明白ナリ然ラハ則チ此案ヤ政府ノ
 財政上ニハ必要ナリト爲スモ士族等ノ家計上ニハ甚大ナル影響ヲ

感セシメン加之人民ハ今日五分ノ利子ト約スルモ早晚更ニ三分或
 ハ二分ノ利子ニ減セラルルヤモ知ル可ラスト危疑セハ大ニ政府ノ
 信用ヲ害シ隨テ財政上ニ影響ヲ及ホサントス是レ尤モ省思セサル
 可ラス猶ホ一層ニ望慮スルトキハ國家不幸ニモ多難ニ際スルコト
 有レハ何等ノ邦國ヲ問ハス必ス非常ノ高價ヲ以テ公債ヲ起スヲ常
 トス一千八百六十年佛國ニ於テ壹割四分乃至壹割五分ノ利子ヲ以
 テ公債ヲ募集セシコト有リ我邦ニ大事件ノ生スル如キハ固ヨリ欲
 スル所ニ非サルモ若シ不幸ニシテ之レ有ラハ必ス高利ヲ以テ廣ク
 公債ヲ募集スルナラン然ルニ人民ニ於テ政府ノ每每其利子ノ割合
 ヲ變スルヲ知ルヤ事平クノ後ハ再ヒ低利ノ公債ニ變換セラルルヲ
 恐レ其募集ニ應スル者必ス少ナカラントス此望慮アルカ故ニ今日

ニシテ舊債ヲ變換セントナラハ宜ク人民ノ意向ニ任カスヲ善シト
 ス且其利子ヲ低減スルニハ元金ヲ昂加セサル可ラス果シテ元金ヲ
 昂加セハ元金ノ高價ナルヲ以テ或ハ應募者ノ多キヲ得ルモ知ル可
 ラス然ルルハ政府ハ其利子ノ低下ナル爲メニ年年ノ支出ニ困難ヲ
 見ス而シテ人民ニ對シテ前約ヲ違ヘス兼テ困窮ノ士族ヲ救済スル
 ヲ得ン此ノ如クニシテ人民ノ信用モ始メテ堅固ナル可キナリ又即
 今募集セントスル公債ハ五十五年ノ期限ナルモ此中年年凡ソ若干
 萬圓ヲ償還スルヤヲ豫定センコトヲ欲ス否ヲサレハ必要ナル本案
 モ或ハ無益ニ屬セントス顧フニ人民相互ノ貸借ニ於テモ償還ノ年
 期ヲ短縮スル無キニ非サレトモ負債主ヨリ其利子ヲ低減スル如キ
 ハ決シテ之レ有ラス本案ハ貸主ニ權ヲ與ヘス反テ借主ニ權ヲ握ル

ナレハ若シ五分利附公債ノ時價百圓以下ニ低下スルニ際シ人民ヨ
 リ償還ヲ望マンニ政府ハ都合ニ依テ償還セサルコト有ルモ人民ハ
 奈何トモスル能ハス歐米諸國ニ於テ公債ヲ募ルニハ政府ト人民ト
 對等ノ權ヲ有ス曾テ英國ニ於テ九分ノ利子ヲ約シ其後此約ヲ改メ
 ント要セシモ人民ハ初約ヲ執リテ承諾セサリシ此等ノ事蹟ヲ以テ
 之ヲ考フルトキハ決シテ人民ノ信用ヲ蔑視スルヲ得ス故ニ本官ハ
 此案ヲ修正シテ完全無瑕ノ者ト爲サント欲スルモ一二條ヲ取捨改
 竄スルノ能ク盡シ得ル所ニ非サレハ願クハ修正委員ヲ設ケテ内閣
 委員ノ參席ヲ乞ヒ政府ノ爲メ又人民ノ爲メニ好修正ヲ加ヘン且各
 官モ知ル如ク人民ニ貯蓄心アリ爰ニ始メテ勉強心ヲ生ス而シテ其
 貯蓄心ヲ起サシムルハ財産ノ安固ヲ保證スルニ在リ此保證ニシテ

移動スル如クシハ其影響ノ及フ所ハ決シテ小少ニ非ス今ヤ公債ノ償還年期ヲ變改スル如キ豈之ヲ財産ノ安固ヲ保證スト謂フコトヲ得ンヤ

退席

四十八番 町田 久成

著席

大藏大臣

○議長 各位ニ告ク大藏大臣説明ノ爲メニ員外席ニ著ケリ

○三十二番 三浦安

本官カ主務大臣ニ質問セサリシハ異議ヲ存セサル

ニ由ル然ルニ只今二十六番ハ一旦約束ヲ爲シタル後チ其期限前ニ償還セハ人民ノ貯蓄心ニ影響スト陳辯セリ是レ一應ハ理ニ適フニ似タレトモ斯ノ如キコトヲ憂ヒナハ到底公債ヲ整理スル能ハサラン抑モ金祿公債ハ士族ト雖モ永世ニ承傳ス可キ者ニ非ス安座シテ

衣食セシムルハ遊惰ノ人民ヲ増サンノミ決シテ得策ニ非ス若シ公債ヲ整理セント欲セハ非常ノ英斷ヲ以テセサル可ラス蓋シ俄ニ七分利附公債ヲ五分利附公債ニ改ムト言ハハ不可ナルモ大體上ニ於テハ百圓ノ整理公債ヲ發シテ以テ現存スル百圓ノ諸公債ヲ償還スルナレハ敢テ支障ヲ見ス而シテ其百圓ノ資本ハ他ノ生産力ニ供用スルノ便ヲ得ヘシ既ニ今日金祿公債ノ所有者ハ假令ヒ償還セララルモ又其資本ヲ運轉スルヲ得ントス二十六番ノ士族家計云云ノ説モ亦敢テ憂フルニ足ラス今日士族ニシテ公債證書ヲ所有スル者ハ恐クハ二三分ノ一ニ過キサレハ爲メニ其生計ニ影響ヲ及ホス無キハ必然ナリ若シ強テ説ヲ設クレハ或ハ信用ヲ破ルヤハ知ラサレトモ此カ爲メニ困難ヲ被ル者千萬人中ノ一二人ニ過キサレ可

シ國家ノ財政ニシテ元氣旺盛ナレハ人民倍々政府ヲ信スルニ至ラ
ン期限ニ先タチ公債ヲ償還スルカ故ニ政府ノ信用ヲ失フノ理由ハ
萬モ之レ無キヲ信ス若シ二十六番ノ言ノ如クナレハ公債ノ整理ヲ
果ス能ハサル可シ本官ハ此案ノ字句ニ對シテハ論ス可キ無キニ非
サルモ其精神上ニ至テハ深ク喜フ可キ者ト思惟ス海軍公債ノ如キ
價格百圓以上ノ應募者ヲ得タリ利子額ニシテ低下セハ民心ヲ奮興
セシムルヲ得ン是レ資本ヲ活動セシムル良手段ニシテ今日コソ其
好機會ナリト信シ斷シテ之ヲ賛成ス要スルニ他事ヲ以テ修正委員
ヲ置クハ可ナレト二十六番ノ精神ヲ以テ之ヲ置カハ必ス本案ノ精
神ヲ打破スルニ至ラン

○員外大臣大藏 二十六番ハ本案ニ關シ危疑ヲ懷ケリ因テ逐次ニ之ヲ辯

釋セン論者ハ從來ノ公債證書ニ三十箇年二十五箇年等ノ期限ヲ約
セルニ一朝之ヲ償還セハ政府ノ信用ヲ缺クト云ヘリ抑モ其年限ト
ハ何年マテニ償還ス可シト云フ最長期限ヲ示ス者ニシテ其期限以
前ニ償還シタレハトテ法律ニ違背スルコトモ無ク道理ニ悖戾スルコ
トモ無ク亦決シテ普通ノ人情ニ於テ怪訝スル有ラサル可シ間マ或ハ
早ク償還セラレハ困難ナリト云フ者無キヲ保セサレト是レ徒ラ
ニ公債證書ニ倚賴シテ衣食スル遊惰漢ノミ決シテ普通ノ人情ニ非
サルナリ前キニ金祿公債證書ヲ發行セシ如キ我邦未曾有ノ新事業
ナリシヲ以テ務メテ舊幕府時代ノ御用金ヲ取扱フ如キ精神ヲ帶ヒ
サルコトニ注意スルヲ要セシカ故ニ一定ノ年限ヲ示シ其年限内ニハ
必ス償還スヘシト明示セシノミ又論者ハ金祿公債ヲ償還セハ士族

ノ生計上ニ大影響ヲ及ホスト云フモ是レ未タ其賣買ヲ許ササル時ニ於ルノ論ノミ既ニ之ヲ許シタル以上ハ普通ノ公債ト異ナル無ク而シテ現ニ壹億萬圓内外ノ金祿公債證書ハ東京大坂京都滋賀名古屋等ノ富豪者ノ手中ニ在リ是レ自然ノ理勢ナルノミ良シヤ依然公債證書ヲ所持スル士族若干アリトモ一般納稅者ノ負擔ヲ寬ムル爲メニハ少數士族ノ家計ヲ顧慮シ以テ本案ノ發布ヲ止ム可キニ非ス又論者ハ前年嘗テ減債方法ヲ公布セリト云フモ本官ハ之ヲ記憶セス第一國立銀行又ハ三井銀行等ノ大藏省ニ於テ此ノ如キ方法ヲ設ケタリトノ事ヲ世上ニ漏セルヤハ知ラサレトモ政府又ハ大藏省ヨリ之ヲ公布セルコトハ之レ有ラス假令ヒ之レ有リトスルモ期限ニ先ダチテ償還スルハ何ノ不可ナル有ラン又論者ハ外國ニ於テハ元金

ノ割合ヲ付シテ借換ヲ爲スト云フモ是レ誤解ナラン假令ヒ其例アリトスルモ之ヲ本邦ニ適用スルノ必要ヲ見ス又論者ハ人民ノ財産ヲ安固ナラシムルコトニ注意セヨト云フモ是レ無用ノ言ニ屬ス本案ヲ發シタレハトテ何ノ爲メニ財産ノ安固ヲ害スルニ至ランヤ殊ニ濟崩法ヲ用ヒ年年償還スヘキ金額ヲ豫定スヘシト云フニ至テハ尤モ不可ナリ彼ノ嘗テ外國ニ募レル九分公債ハ日本政府ノ未タ信用ヲ海外ニ得サル當時ニ在リテ特約シタル者ナレハ濟崩法ヲ用ヒタルコト固ヨリ已ムヲ得サルノミ今日ハ幸ニ政府ニ信用アリ且諸公債ノ時價ノ昂貴セルニ會フ何ヲ苦ミテ復タ舊轍ニ出ルヲ須ヒンヤ宜ク最好ノ手段ヲ以テ之ヲ整理スヘキナリ且論者ハ婆心ヲ以テ修正委員ヲ設ケ本案ヲ調査セント云フモ是レ甚タ不同意ナリ若シ正當

ノ理由アラハ修正委員ヲ設クルモ可ナレトモ本案ノママニ發布スルハ不安心ナリト云ヒ以テ之ヲ設クルハ甚タ服セサル所ナリ夫レ七分公債モ百拾圓ニ買ヘハ六分ト爲リ百貳拾圓ニ買ヘハ五分ト爲ル今日市場ノ實況ハ已ニ六分五分ニ下レリ一步ヲ進メテ之ヲ言ヘハ本邦ハ一般ノ金利甚タ高キヲ以テ農工商ノ事業ニ資本ヲ下サス故ニ國力富ムヲ得ス苟クモ金利低下ナレハ隨フテ資本ヲ農工商ノ事業ニ投スルニ至ルハ自然ノ理勢ナリ殖産事業興隆スレハ外國貿易ニモ利益ヲ收メン外國ハ三分四分ノ利子ナル資本ヲ以テ産出セル物品ヲ以テ貿易スルニ我邦ハ八分壹割ノ利子ナル資本ヲ以テ物品ヲ製作スル如何ソ彼レニ勝ツコトヲ得ン今後益ス金利ノ低下センコトハ尤モ期待スル所ナリ

○議長 二十六番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者ナシ

○議長 二十六番ノ建議ハ起立者ナキヲ以テ成立セス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル

○番一岩崎小 第一讀會ノ初メニ述タル如ク大體ハ暫ク擱キ逐條

外二岩崎小

ニ關シテハ各國ノ類例ヲモ討究シ許多ノ時日ヲ費シテ調査セシ者ニ係ル原來スノ如キ法律規則ハ大體ノ議論一定セハ條項ノ如キハ寧ろ輕易ナル者ニシテ發行又ハ利拂ノ手續等ヲ列舉スルニ過キス過刻モ云ヘル如ク本案ハ市場ニ影響ヲ生スル少小ナラス是レ本ト避ク可ラサルノ事情ナレトモ會議ノ時日ヲ重ヌル爲メニ商人社會ヲ動搖セシムルハ得策ニ非ス因テ引續キ第二讀會第三讀會ヲモ開カ

ンコトヲ請求ス

○三十二番^{三浦安} 本官ハ素ヨリ本案ニ同意ニテ逐條ニ關シテモ異見ヲ有セサレ^氏重大ノ法案ナルヲ以テ直チニ第二讀會第三讀會ヲ經過セシムルハ疎漏ニ失スルノ憾ミ有ラン若シ定期ノ日ヲ縮メテ明日ニ開會スルハ妨ケ無キモ本日直チニ次會ヲ開クハ甚タ好マサル所ナリ

○員外^{大藏大臣} 三十二番ハ直チニ第二讀會ニ移ルハ不可ナリト云ヘリ本官ハ議場ノ制規ヲ詳知セサレトモ開會以前ニ日數ヲ與フルヲ以テ各官ノ熟讀ヲ經テ第一讀會乃至第三讀會ヲ連子開クモ支障ヲ見サラント信スルナリ若シ本日突然ニ總理大臣ヨリ此案ヲ下付シテ直チニ議定セヨト云ハハ其急迫ナルハ明カナレトモ既ニ下付以來

數十時間即チ數日數夜ヲ隔テ且己ニ第一讀會ヲ畢レルヲ以テ直チニ第二讀會ヲ開クニ急迫ニ過ルト云フハ本官ノ解セサル所ナリ現ニ一昨日ト昨日トハ公債證書ノ時價ニ非常ノ異動ヲ生セリ是レ本案ノ爲メニ暗ニ商業上ニ危疑ヲ與フル者タルヲ知ル可シ願クハ時間ヲ假サスシテ直チニ第二讀會第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム本日モ未タ午時ニ達セス假令ヒ日晚ルモ尙ホ夜ヲ餘マス斯ノ如キ法案ヲ議スルハ尋常ノ法案ヲ議スルト同シカラス是レ政略上ノ必要ノ存スルヲ以テナリ

○二十六番^{尾崎三頁} 本官ノ意見ハ不幸ニシテ議場ニ行ハレサリシ若シ本官ノ意見ニシテ議場ニ行ハレハ逐條ニ關シテハ少小ノ論議ヲ生ス可キモ既ニ大體ヲ可決セルヲ以テ敢テ許多ノ議論ヲ紛起セサル

可シ況ンヤ他ノ法律規則ノ如ク罰例ノ輕重等ハ毫モ之レ無キニ於テヲヤ速ニ連開議了ス可シ

○議長 員外ニ一言ス本院ノ議事規則ニ於テハ第一讀會ノ後チ三日ヲ隔テ第二讀會ヲ開クヲ定例トス然レトモ多數ノ同意者ヲ得ハ第二第三讀會ヲモ連子開カン

○員外大藏大臣 領承ス

○五十八番東久世通禧 引續キ第二讀會ヲ開クハ定メテ各官モ賛成スル

所ナラント信スレモ假令ヒ之ヲ開クニ決スルモ時既ニ午時ニ近ケレハ午餐ノ後ニ開會センコトヲ望ム

○五番榎村正直 本官ハ本案ヲ賛成スルヲ以テ沈黙セシニ二十六番ハ全部付託調査委員ヲ設ケント云ヒ三十二番ハ引續キ第二讀會ヲ開ク

可ラスト云フモ本案ハ調査其宜キヲ得タル故ニヤ條項ニモ敢テ修正ヲ加フルヲ要セス又此議案配付ノ時ヨリシテ至急議定ヲ要スルノ旨ヲ領セリ既ニ各官ニ於テモ熟考ヲ經タル可シト信スルヲ以テ第二第三讀會ヲ開クモ不可ナル無ラン若シ内閣委員ニ質疑シテ大ニ我カ所見ト齟齬スル等ノコトヲ發覺セハ即日ニ第二讀會ヲ開ク可ラスト云フモ可ナレトモ本案ニ關シテハ斯ノ如キコト無キヲ以テ引續キ第二第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム

○議長 大藏大臣及ヒ番外一番ヨリ引續キ第二第三讀會ヲ開クコトヲ請求セリ之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク時既ニ午時ニ近キヲ

以テ五十八番ノ建議ヲ採用シ一旦散會シテ午餐ノ後ニ開會セン各
位散會セヨ

午前第十一時四十分閉場

午後零時三十分開場

退席

六番 林 友幸

同

十一番 渡邊 清

同

二十八番 黒田 清綱

同

三十八番 津田 眞道

同

三十九番 楫取 素彦

同

五十二番 何 禮之

同

五十四番 調所 廣丈

同

五十六番 宮本 小一

同

五十九番 渡 正元

同

六十一番 税所 篤

○議長 第五百二十七號議案ノ第二讀會ヲ開ク本案ハ條數頗ル多ク
且短文ノ者アルヲ以テ適宜ニ連帶シテ朗讀セシム可シ

書記官 森山 茂 朗讀

整理公債條例

第一條 整理公債ハ從前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理
スルカ爲メニ募集スルモノトス

○議長 發議ナキヲ以テ可決ト認メ次ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限り大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓千圓五百圓百圓五十圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

○議長 朗讀ノ部分ハ可決ト認メ次ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 整理公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募申込日限應募

金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第七條 整理公債應募高每期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス

第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未濟ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ公債證書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス

第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向五十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々

大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲナストキハ日本銀行本店ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額面三拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得

抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ當籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等ヲ廣告セシムルモノトス

○番一 岩崎小 第十條ニ假字ヲ以テ「ナス」トセルハ謬レリ當サニ

外二 郎 他條ニ倣フテ「爲」ノ眞字ヲ用ヒ之ニ「ス」ノ假字ヲ附スヘシ第十八條ノ「ナシ」ノ字モ亦謬レリ均シク他條ニ倣フ可シ是レ原案ノ謬リニ出ルヲ以テ此ニ之ヲ正ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ朗讀ノ部分ハ可決ト認メ次ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス

第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ截斷シテ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過ク

レハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間ノ日數ヲ算セス

第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ戸長ノ奥書ヲ受ケ證書ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方連署ノ請求書ニ證書ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ正當ノ相續人タルコトヲ證スル戸長ノ奥書ヲ受ケ前條名前書換

ノ手續ヲ爲スヘシ

○議長 朗讀ノ部分ハ可決ト認メ次ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺旨ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受クルモノアルトキハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有權他へ移轉シタルトキ其引受人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添ヘ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若クハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタル

トキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ届出代證書若クハ代利札ノ交付又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ大藏省ハ其消滅ノ證跡明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書若クハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルモノハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ヘシ其發見ノ時亦同シ

前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ但廣告料ハ届出人ヨリ納メシムルモノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ之カ支拂ヲ見合スヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スルモノアルトキハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ紛失利札其支拂期限ヨリ滿四箇年ヲ過キ猶ホ發見セサルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限ヲ過キテ紛失證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ届出人ニ對シテノミ起訴ノ

權アルモノトス

○議長 朗讀ノ部分ハ可決ト認メ次ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第二十六條 紛失證書ノ當籤ハ無効ノモノトス

第二十七條 整理公債證書ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行
本支店又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ
交付ヲ請求スルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ鑒別シ得ヘキモ
ノニハ代證書ヲ交付シ鑒別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書
ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキ第十六條第十七條
第十八條第十九條ノ名前書換ノトキ第二十條第二十四條第二十

五條第二十七條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ
變更スルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ相當ノ手数料ヲ本
人ヨリ納メシムルコトヲ得

第二十九條 第二十條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本支店又ハ
代理店ニ於テ満足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ
元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證
書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造費發行費及募集初年ノ利子ハ募
集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關ス

ル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハ
シム

○三十二番^{三浦安} 内閣委員ニ問フ第三十一條ニ載スル事項ハ従前ノ
公債證書條例ニ見サル所ナリ其之ヲ載スルハ如何ナル理由ニ出ル
乎

○番一^{岩崎小} 従前ノ公債證書條例ニハ一モ斯ル條項ヲ置カス三
外^{二郎} 十二番ノ之ヲ怪メルモ宜ヘナリ抑モ従前ノ公債證書ハ各官ノ知ル
如ク或ハ藩債ヲ新政府ニ擔承スル爲メニシ或ハ華士族ノ秩祿ニ換
ル爲メニシ其他總テ一時濟急ノ目的ニ出ルカ故ニ當時ニ在テハ公
債證書ノ製造費發行費等ハ政府ノ便宜ニ隨フテ或ハ本證書ニ對ス
ル募集金ヲ以テ支辨シ或ハ國債局ニ貯藏スル準備金ヲ以テ支辨シ

タレレ今ヤ財政モ文明各國ノ制ニ倣ヒ其出入ヲ世間ニ公示スルヲ
要ス約言セハ今回ハ一舉ニシテ各舊公債證書ヲ整理公債證書ニ變
スルノ時機ナレハ製造費發行費等ヲ支辨スル方途ヲ明示セサル可
ラス眼ヲ轉シテ文明各國ノ公債證書條例ヲ觀ルニ皆斯ル條項ヲ置
ケリ加之其發行證書ノ幾分ヲ以テ費用ニ充ルト明記スルヲ例トス
然レモ本邦ニ在テハ然ク明記スル能ハス又然ク明記セサルモ主務
省ハ務メテ節儉ヲ守リテ其費用ヲ支辨ス可レハ之カ必要ヲ見ス況
シテ歳費常用ノ豫算モ既ニ定マレルヲ以テ敢テ超過セシムル能ハ
サルヲ要スルニ本條ハ海外諸國ノ成例ニ倣ヒ本邦財政ノ進歩ヲ
顯ハス者ト見ハ可ナリ

○二十六番^{尾崎三良} 本官モ質問セン従前ノ公債證書條例ニハ例文ノ如

ク其編末ニ「政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補改正スルコトアルヘシ」トノ一條ヲ置ケルニ本案ノミ之ヲ置カサルハ何ソヤ今後本條例ハ必ス増補改正ヲ爲ササル意ナル歟將タ他ニ理由ヲ存スル歟

○岩崎小
外一番
二郎

此疑問ノ起ルモ頗ル宜ヘナリ本案ハ今後一字一句モ決シテ増補改正セスト云フニ非ス若シ實際ニ支障ヲ生セハ固ヨリ増補改正セントス是レ蓋シ政府ノ特權ナレハナリ然レモ五分ノ利子ヲ三分ト爲シ五十年ノ償還期限ヲ百年ニ延ル等ハ公債證書所有者ノ利害ニ關係スルヲ以テ敢テ之ヲ爲ササル可キハ明文ヲ俟テ後チ知ラサルナリ縦ヒ政府ハ無上ノ權力ヲ有スルヲ以テ斷シテ之ヲ爲スヲ得ルモ原來公債證書ハ全國民ノ爲メニ發行スル者ナレハ

德義上利益上法理上決シテ之ヲ爲ササルヤ疑ヒ無シ然ラハ従前ハ何ノ故ニ之ヲ置キタルヤト云ンニ當時ハ人民モ未タ公債證書ノ何物ナルヤヲ知ラス加之舊幕府ノ時代ニハ御用金等ノ名目ヲ以テ屢ハ金錢ヲ官ニ納レタル餘焰未タ全ク消セサリシヲ以テ人民ノ心ヲ安ニスルカ爲メナリ蓋シ人民ノ政府ヲ信スルノ厚薄ニ因リ法律モ亦豫約文ヲ特記スルヲ要スルト否トノ差異ヲ生ス可シ併セテ陳フ第三十一條ノ「及」ノ下ニヒノ字ヲ脱セリ原案ノ誤謬ニ屬スルヲ以テ此ニ之ヲ正ス

○二十六番尾崎
三頁

内閣委員ノ只今ノ説明ヲ以テシテハ仍ホ未タ全ク本官ノ疑惑ヲ解クニ足ラス内閣委員ハ利子ヲ減スルト償還期限ヲ延ルトハ格別ニ屬シ其他本條例ヲ増補改正スルハ政府ノ權内ニ屬

スト云ヘリ夫レ今回ノ處置ハ從前ノ條例ニ償還期限ヲ定メタルニ拘ラスシテ之ヲ縮ムルニ在リ故ニ本案ヲ發セハ人民ハ視テ以テ將來ト雖モ亦政府ハ隨意ニ償還期限ヲ縮ムル者ト做サントス知ラス今後モ償還期限ヲ縮ムルコト有リヤ將タ延縮共ニ決シテ之ヲ爲ササルヤ

○番一 岩崎小
外 二 二郎

二十六番ハ少シク見解ヲ誤レルニ似タリ今回ト雖モ從前ノ各公債ノ償還期限ヲ縮ムルニ非ス若シ他ノ公債ノ償還期限ヲ縮ムルナレハ別ニ其法律ヲ發セサル可ラス今其然ラサルハ本案ハ敢テ他ノ條例ヲ廢スルニ非ス又其償還期限ヲ縮ムルニ非サルヲ以テナリ此整理公債ノ利子ハ五朱ナルモ他日市場ノ景況ニ應シ政府ハ又更ニ四朱乃至三朱ノ公債ヲ發行スルヤヲ知ル可ラス是レ

蓋シ財政ヲ掌理スル有司ノ任務ニシテ本員輩ハ國家ノ爲メ斯ル氣運ニ遭遇センコトヲ希望ス且其償還期限内ニ早ク償還ヲ爲スハ政府ノ權ニ屬シ他ノ容喙ス可キニ非サルハ過刻大藏大臣ノ陳辯セル所ノ如シ政府ハ夙ニ此ニ見ル有ルヲ以テ從前ノ公債證書條例ニハ常ニ幾年ヲ限り償還ス云云ノ語句ヲ載セタリ是レ彼ノ英國ニ募レル公債ノ幾年間ニ償還スルコトヲ約セル者ト同シカラス要スルニ此整理公債モ從前ノ公債ト同シク利子ヲ減スルト償還年限ヲ延ルトヲ除キ期限内ニ於テ早ク元金ヲ償還スル等ハ政府ノ自由ニ屬スルナリ

○一番 山口
尙 芳

只今內閣委員ハ二十六番ノ質問ニ答ヘテ本案ヲ増補改正スルハ政府ノ自由ニ屬ス但利子ノ比例ト償還ノ年限トハ德義上

利益上之ヲ變更セスト云ヘリ然レモ從前ノ各公債證書條例ニ「政府ノ都合ニ依リ」云云ノ一條ヲ置クハ其之ヲ作レル當時ニ在テハ完備ナル者ト認ルモ永ク増補改正ヲ爲ス無キヲ期セサルト信義ヲ重ンスルトノ爲メニシテ法律ノ進歩如何ニハ關セサル可シ故ニ此一條ヲ置クノ當否ニ至テハ本官モ疑フ無キ能ハス又第二十八條ニ相當ノ手数料ト言ヘリ其相當ト認定スルハ專ラ日本銀行ノ權内ニ屬スルヤ第三十二條ノ法意ヲ推セハ大藏大臣ノ權内ニ屬スルニ似タリ果シテ然レハ第二十八條ノ相當ノ文字ハ宜ク削除スヘシ此認定ノ權ハ果シテ孰レニ屬スル乎

○二十六番尾崎三頁 内閣委員ハ償還期限ヲ縮メス惟タ早ク償還ヲ爲スノミト辯スルモ是レ立言ノ差異ニシテ其所爲ノ實ニ期限ヲ縮ムル

ニ在ルハ疑ヒ無シ例ヘハ三年ヲ期シテ西京ニ遊フヲ約シ一年ヲ出スシテ到達スル有ランニ人其速カナルヲ問ハハ我カ脚進ミタルニ由ルト答フルカ如シ其レ然リ内閣委員ノ説明ハ到底強辯タルヲ免レス然ルモ是等ハ大體ニ關セサルヲ以テ今更ニ本案ニ對シ修正說ヲ提出セン乃チ他ノ公債證書條例ニ倣フテ編末ニ一條ヲ設ケ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補改正スルコトアルヘシト言ハントス是レ利子ヲ減スル如キハ德義上爲ス有ラスト云フモ今ヤ政府ハ從前發行シタル公債ノ償還期限ヲ縮ムルナレハ將來亦之ヲ延ルヤモ知ル可ラストノ疑惑ヲ斷チ以テ人民ノ安心ヲ買フカ爲メナリ

○一番山口尚芳 二十六番ノ動議ヲ賛成ス番外ノ明文ヲ要セスト云フハ

一理アルニ似タルモ高尚ニ失シテ實際ニ適セス彼ノ何國ノ和親條約ニモ雙方ノ協議ヲ以テスルニ非サレハ將來變更セサルコトヲ明記セルヲ看テ知ルヘシ是レ蓋シ明文ヲ俟テ後チ知ル可キニ非ルモ尙ホ斯ル條項ヲ置クニ非スヤ若シ將來ニ於テ絲毫ノ増補改正タモ爲サストノ旨趣ナレハ原案ニ從フ可キモ番外ノ陳ル如ク果シテ政府ノ便宜ニ隨ヒ増補改正ヲ爲ストノ旨趣ナランニハ宜ク之カ明文ヲ載スヘク之ヲ載スルモ大體ニ關セス惟タ當然ノ事項ヲ明記セルニ止レハ法律ヲ傷ツクル等ノ憂ヒハ萬萬之レ無シ因テ此動議ニ可決スルヲ望ム

○議長 二十六番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十八番 神田孝平 本問題ニ關係ヲ有セサル事項ニ關シ内閣委員ノ説明

ヲ請シ此整理公債證書ハ外國人ニモ之ヲ所有スルコトヲ許スニ似タリ果シテ然ルヤ

○番一 岩崎小 然リ

○十八番 神田孝平 然レハ外國人ノ此公債證書ニ記名ヲ請フノ順叙ハ何

如スルヤ本邦人ナレハ第十五條ニ據テ戶長ノ奧書ヲ受ケ證書ヲ添ヘテ大藏省ニ申出ルノ順叙ナリ外國人モ亦本條ニ據ル可キ乎

○番一 岩崎小 本案ニハ外國人ノ記名ヲ請フノ順叙ヲ載セス原來

外國人ハ本邦ノ法律ヲ以テ處スル能ハサレハ其記名ヲ請フ場合ニ在テモ公使若クハ領事ヲ經テ大藏省ニ申出ル者ト看テ可ナラン

○番二 小池靖一 編末ニ一條ヲ加フル動議ハ問題ト爲レリ是レ明治六

年ニ發布セル新舊公債證書發行條例ヲ首祖トシ十六年ニ中山道鐵

道公債證書條例ヲ發布セル時ニ至ルマテ各公債證書條例ニ登載シタル者ナルモ其實ハ要用ナラス蓋シ此一條ヲ登載セサルモ利子ヲ減シ償還年限ヲ延ヘサルハ明白ナリ又倘シ政府ニシテ之ヲ減シ之ヲ延ル如キ暴政ヲ施ス無キヲ期セストセハ假令ヒ此一條ヲ登載スルモ亦其功效ヲ見サル可シ畢竟本案ハ政府ト人民トノ契約ナレハ政府ハ決シテ之ヲ變易セサルナリ故ニ此一條ハ寧ロ蛇足ニ屬ストシテ今回ハ之ヲ省ケリ又手数料ハ日本銀行ニ於テ幾許ニモ定ムルニ非ス即チ第二十八條ニ所謂ル相當ヲ必要ナリトス故ニ若シ大藏大臣ニ於テ不相當ト認メハ改定セシムルノミ

○三番 鍋島直彬 本問題ヲ賛成ス理由ハ二十六番一番ト同シク約言スルニ德義ニ讓リ明文ヲ要セスト云ヘハ現行法ニモ明文ヲ要セサル者

亦多シ到底德義云云ノ説ハ從フ可ラス

○三十二番 三浦安 内閣委員ニ質問セン各公債證書條例ハ皆凡テ外國ノ成例ニ則リテ制定セルナランモ本問題ノ如キ明文ハ彼ノ條例ニハ之ヲ載セサル歟將タ之ヲ載スルヤ

○外番二番 小池靖一 英國ノ公債證書條例ニハ之ヲ載スルヲ見ス其他各文明國ノ公債證書條例モ亦然ラン獨リ本邦ノ新舊公債證書條例ニ始メテ之ヲ載セ爾來相襲テ各種ノ公債證書條例ニ之ヲ載セリ然ルニ此明文ハ素ト蛇足ニ屬シ之レ無キモ利子ノ歩合及ヒ償還ノ年限ヲ變更セサルヤ明ケシ又若シ此等ヲ變更スル如キ暴政府ナランニハ假令ヒ之レ有ルモ其功效ヲ見サラン到底無要ノ長物ニシテ法律ノ體裁ヲ傷フ者ト謂フ可キノミ

○三十二番^{三浦安} 只今内閣委員ハ單ニ一國ノ例ヲ示セルモ本官ハ各國亦同一ナルヲ信ス原來法律ハ時勢ニ隨ヒ變更スルハ格別ニ屬スルモ其性質タル本ト變更ス可ヲサル者トス然レハ則チ前ニ此明文ヲ載セタルハ恐クハ誤リニ出タラン今後ハ宜ク之ヲ改メ以テ將來ノ標準ト爲スヘキナリ

○一番^{山口尙芳} 尙ホ一辨セン嘗テ中山道鐵道公債證書條例ヲ議スルニ當リテ是等ノ動議出タリ然レモ其公債證書ハ外國人ニモ所有ヲ許スニ由リ他日ノ異議ヲ防ク爲メニ遂ニ「政府ノ都合」云云ノ一條ヲ存セリ只今外國ニ於ル公債證書條例ノ類例ヲ聞クモ彼ハ別ニ條規ヲ設クルヲ以テ之ニ讓レルナル可シ本邦ニ於テハ初メヨリ一切ノ事項ヲ條例ニ併記シタリ是レ其機關ノ完備セサルニ由レハ此一條モ

亦宜ク之ヲ存スヘク之ヲ存スルモ法律ノ體面ヲ傷クル等ノ憂ヒ無ラン本官モ當初ハ無要視セサルニ非サリシモ前陳ノ如ク中山道鐵道公債證書條例ニモ之ヲ存セシナレハ本案ニモ亦之ヲ載スルヲ優レリトス

出席

大藏大臣 松方 正義

○議長 説明ノ爲メニ大藏大臣員外席ニ着ケリ各官之ヲ領セヨ

○員外^{松方正義} 從前ノ公債證書條例ニ照シテ編末ニ「政府ノ都合」云云ノ一條ヲ加フ可シト云フハ一理アリ原來公債證書條例ノ如キハ最も人民ノ信用ヲ得ルヲ重シトス故ニ從前ハ彼ノ一條ヲモ加ヘタレモ人民ノ信用ニシテ利子ノ比例ヲ下シ償還ノ年限ヲ延ヘサルハ人民ノ信用スル所ナルヲ以テ之ヲ除ケリ蓋シ斯ル條項ハ他ノ法律ニモ

之レ有ルヲ見ス又現ニ政府ノ信用ヲ損スル如キ條項ハ登載セサルヲ優レリトス然レモ從前登載シタルモ尙ホ政府ノ信用ヲ損セサレハ本案ニモ登載ス可シト云フナラハ然ク決スルモ支障ヲ見サルナリ眼ヲ轉シテ各外國ノ公債證書條例ヲ觀ルニ財政ノ確固ナル國ニ在テハ概シテ斯ル條項ヲ登載セス彼ノ埃及土耳其等ノ如キハ縱令ヒ之ヲ登載セルモ的ニ遵守セサレハ何ノ功效ヲ致サン原來法律ハ苟モ改更ヲ加ヘサルヲ期スルモ其取扱順叙ニ至テハ改更ヲ加フル無キヲ期セス公債ノ利子ノ比例及ヒ償還ノ年限等ハ必ス改更セサル可キモ當議場ニ於テスラ之ヲ信セスシテ斯ル問題ヲ生セシナレハ世間ニハ之ヲ信セサル者モ多カル可シ然レハ則チ之ヲ登載スルモ亦可ナラン又第二十八條ニ言フ所ノ相當トハ日本銀行ノ定ムル

者ニ係ルモ之ヲ認可スルハ大藏大臣ナリ是等ハ凡テ別ニ細則ヲ以テ規定スル有ル可シ海軍公債證書條例ナリ中山道鐵道公債證書條例ナリ其取扱順叙ハ皆凡テ別ニ之ヲ規定シ而シテ日本銀行ニ下命セリ本案モ亦當サニ此例ニ據ルヘキモ法律ニ許ササル金圓ハ日本銀行之ヲ收ムル能ハサルヲ以テ此ニ其門戸ヲ開クノミ編末ニ一條ヲ加フル問題ニ關シ番外一番番外二番ノ陳ル所ハ甲乙差異ヲ生シ少シク明瞭ヲ闕クヲ以テ聊カ之ヲ辨シ併セテ「相當」云云ノ解ヲ爲ス

○議長 發議已ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ン二十六番ノ動議ニ同意ス
スル者ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ朗讀ノ部分ハ可決ト認メ此ニ第二讀會ヲ畢リ直チニ第三讀會ヲ開ク前會ニ格別ノ異論ヲ聞カス且本案ハ條項多キヲ以テ朗讀ヲ略シ第一條乃至第十條ヲ問題ト爲ス

整理公債條例

第一條 整理公債ハ從前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理スルカ爲メニ募集スルモノトス

第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附ニシテ五千圓千圓五百圓百圓五十圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ

由リ記名トスルコトヲ得

第五條 整理公債證書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募申込日限應募金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第七條 整理公債應募高每期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス

第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未濟ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ

前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ公債證

書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ金額ハ還付セサルモノトス

第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向五
十箇年間ニ抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々
大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條 整理公債元金償還ノ爲メ抽籤ヲ爲ストキハ日本銀行本店
ニ於テ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上日本銀行役
員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但整理公債證書額面三拾萬圓以
上ヲ有スルモノハ抽籤ニ臨席スルコトヲ得

抽籤ノ後ハ日本銀行ヲシテ當籤證書ノ記號番號種類及ヒ金額等
ヲ廣告セシムルモノトス

○議長 第一條乃至第十條ハ可決ト認メ第十一條乃至第十七條ヲ問

題ト爲ス

第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス
第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在
ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月
分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ
支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ
截斷シテ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金
ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇年利子ハ支拂ノ期月後滿五箇年ヲ過ク
レハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及ヒ毀損等ニ由リ元

利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アル
トキハ其間ノ日數ヲ算セス

第十五條 無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ
戸長ノ奧書ヲ受ケ證書ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由
シテ大藏省ニ申出ヘシ

第十六條 記名證書ノ賣買讓渡ヲ爲シタルモノハ雙方連署ノ請求
書ニ證書ヲ添ヘ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ名前書換ヲ
請フヘシ

第十七條 記名證書ノ所有者死去シタルトキ其相續人ハ請求書ニ
正當ノ相續人タルコトヲ證スル戸長ノ奧書ヲ受ケ前條名前書換
ノ手續ヲ爲スヘシ

退席

五十五番

大給

恒

○十八番 神田 孝平 本會ニ修正說ヲ提出スルハ適當ノ時機ニ非サレ_レ聊
カ第十五條ニ修正ヲ加ヘン_レ戸籍等ノ事ニ關シテハ戸長ノ奧書ヲ要
ス可キモ無記名證書ヲ記名ニ變換スル如キ場合ニ在テハ何ソ_レ之カ
奧書ヲ要セン_レ過刻外國人ノ無記名證書ヲ記名ニ變換スル順叙ヲ問
ヒタルニ斯ル場合ニ際セハ普通ノ順叙ニ倣ヒ公使若クハ領事ヲ經
テ請求スル者ト視テ可ナラント云ヘリ然レ_レ本公債證書ハ外國人
ニモ所有ヲ許スナレハ本案ヲ發セハ斯ル場合ハ日ナラスシテ生ス
ル有ル可シ_レ原來公使若クハ領事ハ斯ル職權ヲ有スルヤ否ヤ是レ得
テ知ル可ラス因テ「戸長ノ奧書ヲ受ケ」ノ八字ヲ削ルヲ善シトス_レ贊
成者ヲ得ハ幸ヒ甚シ

○員外松方正義

十八番ノ修正說ハ未タ問題トハ爲ラサレモ關係稍ヤ大ナルヲ以テ一辯セン無記名證書ト記名證書トハ紛失等ノ場合ニ於テモ其措置ヲ異ニシ記名ナレハ頗ル嚴重ナル措置ヲ要ス然ルニ銀行等ハ某人ノ果シテ某地ニ住スルヤヲ知ラス故ニ戸長ノ奧書ヲ必要ナリトス論者ハ外國人ノ事ヲ引テ云云スルモ治外法權ノ未タ撤去セサル今日ニ在テハ復タ奈何トモスル能ハス現ニ何國人ノ本邦ニ來レルモ本國領事ノ證書ヲ有セサレハ我カ政府ハ之ヲ確ムルニ由シ無シ故ニ我ハ常ニ其證書ヲ觀ルヲ要ス其他外國人ニ關シテハ百般ノ事項皆常ニ本國領事ノ證明ヲ要セサルハ莫シ他日治外法權既ニ解ケ又ハ本邦ニ歸化セルキハ固ヨリ本案ニ據テ戸長ノ奧書ヲ要ス可シ今日此事ノ外國人ニ適用ス可ラサルカ爲メニ却テ內國人

ニ要用ナル戸長ノ奧書ヲ要セスト爲スハ解セサルナリ

○議長 十八番ノ修正ハ賛成者ナキヲ以テ問題ト爲ラス即チ第十一條乃至第十七條ハ可決ト認メ第十八條乃至第二十五條ヲ問題ト爲ス

第十八條 記名證書ノ所有者ノ遺旨ニ依リ相續人ニ非スシテ證書ヲ讓リ受クルモノアルトキハ右相續人ヲ以テ保證人ト爲シ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ但相續人ナキ場合ニ於テハ前所有者ノ親戚二名以上ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第十九條 記名證書ノ所有者身代限ノ處分ヲ受ケ證書ノ所有權他へ移轉シタルトキ其引受人ハ裁判所ノ證明書ヲ承ケ之ヲ證書ニ添へ前條名前書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 整理公債證書若クハ其利札水火災等ニ由リ消滅シタルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ届出代證書若クハ代利札ノ交付又ハ利子ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ大藏省ハ其消滅ノ證跡明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書若クハ代利札ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ

第二十一條 整理公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルモノハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ヘシ其發見ノ時亦同シ

前項ノ届出アルトキハ銀行ハ直ニ其次第ヲ廣告スヘシ但廣告料ハ届出人ヨリ納メシムルモノトス

第二十二條 公債證書又ハ利札紛失ノ届出アルトキハ日本銀行本

支店又ハ代理店ハ之カ支拂ヲ見合スヘシ

第二十三條 紛失届出ノ證書又ハ利札ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スルモノアルトキハ銀行ハ之ヲ預リ置キ其旨ヲ届出人ニ報知シ持參人ト届出人ト相當ノ手續ヲ經テ所有權ヲ證明スルヲ待テ其取扱ヲ爲スヘシ

第二十四條 記名證書紛失届出後一回ノ利拂了リタル上ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ大藏省ニ申出代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 紛失無記名證書其届出ヨリ滿六箇年ヲ過キ紛失利札其支拂期限ヨリ滿四箇年ヲ過キ猶ホ發見セサルトキハ届出人ニ代證書ヲ交付シ又ハ利子ヲ支拂フヘシ但本文期限ヲ過キテ紛失

證書又ハ利札ヲ持參スルモノアルモ届出人ニ對シテノミ起訴ノ權アルモノトス

○議長 第十八條乃至第二十五條ハ可決ト認メ第二十六條乃至第三十二條ヲ問題ト爲ス

第二十六條 紛失證書ノ當籤ハ無効ノモノトス

第二十七條 整理公債證書ヲ汚染又ハ毀損シタルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經由シテ其證書ヲ大藏省ニ差出シ代證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得大藏省ニ於テ其真正ヲ鑒別シ得ヘキモノニハ代證書ヲ交付シ鑒別シ難キモノニハ其取扱總テ紛失證書ノ例ニ準セシム

第二十八條 第十五條ノ證書交換ヲ受クルトキ第十六條第十七條

第十八條第十九條ノ名前書換ノトキ第二十條第二十四條第二十五條第二十七條ノ代證書ヲ受クルトキ及ヒ記名證書ノ取扱店ヲ變更スルトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ハ相當ノ手数料ヲ本人ヨリ納メシムルコトヲ得

第二十九條 第二十條第二十四條ノ保證人ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ満足スルモノニ限ルヘシ

第三十條 従前發行ノ六分以上利附ノ公債證書ヲ所有スルモノハ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リ大藏省ノ都合ヲ以テ整理公債證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第三十一條 整理公債證書ノ製造費發行費及ヒ募集初年ノ利子ハ募集金ヲ以テ支出スルコトヲ得

第三十二條 整理公債ノ募集償還利子ノ拂渡證書ノ書換等ニ關ス

ル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハ

シム

○議長 第二十六條乃至第三十二條ハ可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ畢

ル例ニ沿ヒ本案可決ノ旨ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午後第二時閉場

元老院會議筆記 明治十九年十月十三日

○第五百二十六號議案 火藥取締規則中 第一第二第三讀會

改正削除ノ件

議長 大木 喬任

出席議員

- | | |
|----|-------|
| 一番 | 山口 尙芳 |
| 三番 | 鍋島 直彬 |
| 四番 | 楠本 正隆 |
| 五番 | 榎村 正直 |
| 六番 | 林 友幸 |
| 七番 | 西 周 |
| 八番 | 長松 幹 |

九番	中島	錫胤
十一番	渡邊	清
十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十四番	加藤	弘之
十五番	渡邊	驥
十六番	村田	保
十七番	本田	親雄
十八番	神田	孝平
二十一番	福原	實
二十四番	小畑	美稻

二十五番	永山	盛輝
二十六番	尾崎	三良
二十八番	黒田	清綱
三十一番	田邊	太一
三十三番	伊集院	兼寛
三十五番	原田	一道
四十一番	宍戸	璣
四十五番	長岡	護美
四十六番	大久保	一翁
四十七番	河田	景與
四十九番	伊丹	重賢

- 五十一番 中村 弘毅
- 五十二番 何 禮之
- 五十三番 岡内 重俊
- 五十四番 調所 廣丈
- 五十六番 官本 小一
- 五十八番 東久世通禧
- 五十九番 渡 正元
- 六十番 中村 正直
- 六十二番 壬生 基修
- 六十三番 津田 出
- 六十六番 神山 郡廉

内閣委員 一番外 法制局參事官岩崎小二郎

- 六十八番 由利 公正
- 六十九番 長谷部辰連

午前第十時五分開場

○議長 第五百二十六號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

明治十七年 十二月 第三十一號布告火藥取締規則中左ノ通改正削除ス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其者ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工

其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用 火藥 三百目 雷管 五百箇

船舶設備銃砲用 大砲一門ニ付 火藥 五十發分 道火管類 七十箇
小銃一挺ニ付 火藥 百發分 雷管 百五十箇

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用 火藥 二百貫目
劇發火藥 三十貫目

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受ク可シ此場合ニ於テハ直ニ陸軍海軍兩省ヨリ火藥ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

第二十條 坑業土工用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上ノ火藥ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ

第二十八條中又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シノ十五字ヲ削除ス

○番一 番二 岩崎小 二郎 本案改正ノ理由ヲ説明スル以前ニ誤字ヲ正サン第十條ノ「其者」ハ「其省」ノ誤リ「道火管類」ハ「導火管類」ノ誤リナリ各位之ヲ領セヨ是ヨリ簡單ニ改正削除ノ理由ヲ陳シ現行火藥取締規則ヲ制定シタル當時ニ在テハ政府ノ注意ハ多ク治安保持ノ一點ニ傾

キシヲ以テ買受制限高ヲ寡少ニス而シテ其寡少ナル爲メニ坑業土工用等全ク治安ニ害スル無キ者ニマテ障礙ヲ與フルヤ否ヤハ素ヨリ立案者ノ注意セシ所ニシテ即チ需要者ハ斯ク危険ナル火藥ヲ一時多量ニ買受サルモ數回ニ分チテ買受ケハ其業ニ支障セスト信セリ然ルニ今日坑業漸ク擴張シ運輸ノ要用モ頻煩ヲ告ルニ隨ヒ彼ノ牛馬モ容易ニ通セサル深山中ニ少量ノ火藥ヲ數回ニ搬送スルハ坑業ノ實際ニ大ナル妨碍ヲ與フルトノ苦情ヲ續發スルニ至レリ今一步ヲ進メテ此點ニ着眼シ果シテ坑業土工用ノ爲メニ特ニ多量ノ火藥ヲ要スル證據分明ナラハ内務大臣ハ特許ヲ與ヘテ制限以上ノ量額ヲ購得セシムルモ甚シキ危険ヲ致ス無カル可シ是レ本案改定ノ主タル理由ノ存スル所タリ今其改正削除ノ處所ヲ舉シニ現行法第

十條第二項ハ「坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ」云云ト掲クルノミニシテ別ニ制限ヲ設ケス只第二十條ニ至リ其火藥ヲ假貯藏所ニ貯藏スル場合ニ於テ火藥二百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ超ユルヲ得サル制限ヲ設ケリ是レ自ラ坑業土工其他職業用ノ買受火藥ニ對スル制限ト爲レルカ如シ是ヲ以テ本案ハ第十條ニ掲クル小銃用、船舶設備銃砲用、烟火製造用ノ火藥ノ制限ニ倣ヒ火藥二百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ以テ坑業土工其他職業用ニ供スル者ノ制限ト爲シ此數量以內ハ單ニ警察署ノ許可證ノミヲ以テ買受ルヲ許シ而シテ第二項ハ前陳ノ理由ニ依リ特ニ多量ヲ要スルトキハ其旨趣數量並使用ノ場所ヲ證明セハ内務大臣ノ特許ヲ得テ幾許巨額ノ火藥ヲモ買受ルヲ許セリ因テ第二十條ニ至リ現行法ノ

但書ヲ削除シ新ニ但書ヲ加ヘ制限以上ノ火藥ヲ貯藏スルニハ第十
七條ニ拘ラス特別ノ處分即チ特ニ距離ヲ指定シテ以テ危險ヲ豫防
セリ請フ速ニ本案ヲ議了センコトヲ

○十六番村田保

内閣委員ハ詳カニ本案發布ノ旨趣ヲ辯明セリ本官尙
ホ熟考スルニ今回火藥取締規則ヲ改正削除スル要點ハ只是レ坑業
土工者ノ爲メニ特別ノ寬典ヲ與フル便利法ヲ設クルニ過キスト信
ス現行火藥取締規則ヲ按スルニ假令ヒ坑業土工用ニ供スル火藥ト
雖モ嚴格ナル制限ヲ存シ且營業者ヨリ直接ニ購買スルヲ許サス是
レ深山積雪ノ中ニ多量ノ火藥ヲ運搬スルニ當リ甚シキ不便ヲ感ス
ル所以ナリ故ニ本案ハ第一ニ特例ヲ設ケ坑業土工用ニ供スル者ニ
ハ制限以上ノ量額ヲ買受ルヲ許シ且陸海軍省ノ火藥庫ヨリ直接ニ

拂下ヲ得ル簡便法ヲ與ヘリ世間最モ危險トスル火藥ニ對シテ斯ル
簡便法ヲ用フル得失如何ヲ考フルニ本邦ニ於テ一時多額ノ火藥ヲ
要スル場合ハ獨リ坑業土工ニ供スルニ在ルノミ而シテ其坑業土工
ノ景況ハ猶ホ幼稚ノ度ニ止マリ之ヲシテ進ミテ盛大ノ域ニ達セシ
メントセハ少小ノ危險ヲ冒シテ簡便ノ良策ヲ施スモ已ムヲ得サル
ナリ故ニ本官ハ本案ノ大體ニ對シテ賛成ヲ表セサルヲ得ス但各條
中意味ノ解ス可ヲサル有レハ之ヲ質サン本案第十條ハ「小銃一挺ニ
付火藥百發分雷管百五十箇」ト記スルモ裝彈ヲ掲ケス裝彈ハ彈丸ニ
雷管ヲ裝置セル者ナレトモ個ハ火藥雷管其何ノ部ニ包含セルヤ將
タ全ク之ヲ除去セルヤ又同條第二項ニ「陸軍海軍兩省ヨリ火藥ノ拂
下ヲ受クルコトヲ得」ト言ヒ第二十條ノ但書ニモ「制限以上ノ火藥

ヲ貯藏云云ト言ヒ兩條共ニ單ニ火藥ノミニ關セルカ如シ然ルニ現
 行法ニ於テハ第一條以下各條總テ火藥ト劇發火藥トハ之ヲ區別シ
 而シテ其火藥ト劇發火藥トヲ併稱スルニハ特ニ「類」ノ字ヲ付シテ
 「火藥類」ト爲シ以テ其包含ノ意味ヲ表示セリ是ニ由テ之ヲ觀ルニ
 前陳ノ二個ノ場合ハ本案ニハ故サラニ劇發火藥ヲ除去セルニ似タ
 リ本官ノ見ル所ヲ以テセハ本案モ現行法ノ旨意ヲ繼キテ「類」ノ字
 ヲ用ヒ劇發火藥ヲ包含セシムルヲ最モ必要ナリトス然ルモ本案ハ
 他ニ理由アリテ單ニ火藥ノミニ止メシヤ如何ン又本案第二十條ハ
 「坑業土工用ニ供スル火藥類ノ爲メ」云云ト言フモ現行法第二十條ハ
 「坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ」云云ト掲ケリ此現行法ノ
 文字ハ本案第十條ノ「坑業土工其他職業用」ノ文字ト同意味ナリ然

ラハ本案第二十條ハ現行法第二十條ニ比シテ稍ヤ其區域ノ廣狹ヲ
 異ニス即チ本案ハ職業用ノ爲メニスル一事ヲ除去シタルカ如シ本
 官ハ其之ヲ除去シタル理由ヲ發見スルニ苦シム蓋シ二百貫目以上
 ノ火藥三十貫目以上ノ劇發火藥ハ殊ニ危険多キヲ以テ假貯藏所ヲ
 設クルニハ第十七條ノ距離ヲ二倍スルヲ要スルナラン而シテ此危
 險タルヤ坑業土工用ニ供スルト他ノ職業用ニ供スルトニ於テ其度
 ヲ異ニスルコト無シ然ルニ本案ハ獨リ職業用ニ供スル者ニ限り二
 倍ノ距離ヲ要セサルハ何ソヤ又本案第二十條ノ但書ハ「第十條制
 限以上ノ火藥ヲ貯藏セントスル者」云云ト言ヘルヲ觀レハ小銃用、
 船舶設備銃砲用、煙火製造用及坑業土工其他職業用ノ數種ニ關カ
 ル者ノ如ク解ス可シ然ルニ此但書ハ單ニ坑業土工用ノ爲メ特ニ多

額ノ火藥類ヲ貯藏スル者ニ對シ特別ノ取扱ヲ爲スヲ示スニ在リテ
他ニ關カル無シト信ス果シテ然ルヤ請フ以上數點ノ辨明ヲ與フル
ヲ

○番一 番二 岩崎小
外 岩崎小
郎

質疑ニ答ヘン第一問現行法本案トモニ第十條ノ火
藥ハ單ニ火藥ノミヲ云ヒ雷管ハ單ニ雷管ノミヲ云フ第二問第二十
條第二項及ヒ「火藥」ノ下ニ「類」ノ字ヲ置カサルハ內閣ニ於テハ火藥
ノ文字中ニ劇發火藥ヲモ包含スト看ルナリ然レトモ今飜テ熟考ス
ルニ「類」ノ字ヲ添サル爲メニ劇發火藥ヲ包含セスト誤解スルノ懼
レ有ルハ實ニ十六番ノ言ノ如シ故ニ或ハ之ヲ修正セハ却テ分明ナ
ラシムルヲ得ン第三問第二十條ノ「坑業土工」ノ下ニ「其他職業」ノ文
字ヲ置サルハ不完全ヲ免レス故ニ說ノ如ク之ヲ挿入スルハ尤モ善

シト思惟ス第四問同條ノ但書ハ論者ノ言フ如キ憂ヒ無シト信ス何
トナレハ元來第二十條ハ第十條第二項ニ關カル規定ニシテ其本條
ヲ繼承セル但書ナレハ同ク是レ第十條第二項ニ關カルハ明白ナリ
豈敢テ之ヲ看テ他ノ小銃用等ノ制限ヲ包含スル者ト解スル有ラン
ヤ

○四十九番 伊丹
重賢

本案ノ大體ハ贊成スレトモ少シク內閣委員ノ說明
ヲ乞ハン第二十條ハ坑業土工用ニ供スル火藥類ノ貯藏所ハ第十七
條ニ掲タル距離ヲ二倍ス可キコトヲ規定シ而シテ却テ第十六條ノ
關係ヲ言ハサルハ何ソヤ第十七條ハ皇陵社寺公園家屋等ニ關シテ
距離ヲ定メリ然ルニ第十六條ハ最モ重キ皇居離宮ニ對スル距離ニ
係レルニ坑業土工用ニ供スル多額ノ火藥類ヲ皇居ノ近傍ニ貯藏ス

ルハ實際之レ有サルノ事ナランモ山中原野ニ建設セル離宮ノ近傍ニ貯藏スル如キハ實際之レ無キヲ期セス然ルニ第二十條ニ於テ第十六條ノ距離ヲ二倍ス可キ規定ヲ立サルハ本官ノ疑訝スル所ナリ

○番一 岩崎小
外 番二 岩崎小
第十七條ノ距離ヲ二倍スルハ現行法ニ規定スル所ニ同シ而シテ第十六條ノ距離ニハ内閣ニ於テ何等ノ詮議モ之レ有ラサリシナリ

○議長 發議盡キタリト認ムルヲ以テ第一讀會ヲ畢ル

○議長 内閣委員ニ問フ引續キ第二讀會ヲ開クヲ要セサル乎

○番一 岩崎小
外 番二 岩崎小
今恰モ議長ニ請求セント欲セシ所ナリ元來勸業ニ關スル事項ハ農商務省若クハ内務省ニ特屬シ内閣ニ經伺シテ直ニ決行スルヲ得レトモ民業ニ關スル事項ニ至テハ其實行ニ多少ノ時

日ヲ要シ且本案ハ現在ノ不便ヲ救濟スルニ急ナレハ願クハ第二第三讀會ヲモ續開センコトヲ

○議長 内閣委員ノ請求ノ可否ヲ議場ニ問ハン引續キ第二第三讀會ヲ開クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十七人

○議長 多數ナルヲ以テ第二第三讀會ヲ續開スルニ決シ直ニ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

明治十七年十二月第三十一號布告火藥取締規則中左ノ通改正削除ス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄

警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用 火藥 三百目 雷管 五百箇

船舶設備銃砲用 大砲一門ニ付 火藥 五十發分 導火管類 七十箇
小銃一挺ニ付 火藥 百發分 雷管 百五十箇

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用 火藥 二百貫目
劇發火藥 三十貫目

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量并使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受

ク可シ此場合ニ於テハ直ニ陸軍海軍兩省ヨリ火藥ノ拂下ヲ受クルコトヲ得

○十六番 村田保 第一讀會ニ内閣委員ニ質問シ本條ノ末文ナル「火藥」

ノ下ニ「類」ノ字ヲ付セサルハ偶然ノ誤脱ナルコトヲ知レリ現行法ヲ觀ルニ明カニ火藥ト劇發火藥トノ二種ヲ區別シ而シテ其兩種ヲ併稱スルトキハ必ス「火藥類」ト爲セリ此處モ兩種ヲ包含セシムルヲ要スレハ原案ノ誤脱ヲ補ヒ「陸軍海軍兩省ヨリ火藥」ノ下ニ類ノ字ヲ加フル修正說ヲ提出ス且第二十八條ハ未タ議題ニ上ラサルモ其但書中ニ同一ノ修正ヲ加フルヲ要ス

○三十三番 伊集院兼寬 贊成

○議長 十六番ノ動議ハ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 十六番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十一人

○議長 多數ナルヲ以テ修正ニ決シ次條ニ移リ簡單ノ條ナルヲ以テ

第二十八條ヲ連帶ス

書記官 森山 茂 朗讀

第二十條 坑業土工用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所

ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五

條ニ據リ管轄廳 東京府ハ警視廳 ニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限

以上ノ火藥ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ

其距離ヲ指定スルコトアル可シ

第二十八條中又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シノ十五字ヲ削除

ス

○十六番 村田 保 書記官ノ朗讀ハ第二十條但書中「火藥」ノ下ニ「類」ノ字

ヲ付セサルモ本官ハ第十條ニ對スル發言ニ於テ既ニ彼此兩處ヲ修

正セルノ意ナリシ却說ク本條ハ坑業土工用ノミニ關スル如ク職業

用ニ及ハサルハ甚タ不倫ナリ現行法第二十條ハ職業用ノ文字ヲ記

セサルモ「坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ」云云ト言ヘル

ヲ以テ其之ヲ含ムハ明瞭ナリ然ルニ本條ハ全ク之ヲ脱ス故ニ坑業

土工用ニ供スル者ナレハ距離ヲ二倍スルヲ要シ職業用ニ供スル者

ナレハ之ヲ要セスト解ス可ク是レ大ニ權衡ヲ失シ且甚タ危險ナリ

因テ「坑業土工」ノ下ニ其他職業ノ四字ヲ加ヘン又但書ニ關シテハ

前會ニ本官ノ質問ニ對シテ內閣委員之カ説明ヲ與ヘリ然レトモ若

シ全ク第十條中ノ一部分ノ制限ヲ指スナラハ尙ホ他ニ其意義ヲ明瞭ナラシムル文章アラン蓋シ但書ハ特ニ坑業土工用ニ供スル爲メ第十條第四ノ制限以上ノ火藥類ヲ貯藏スル場合ニ關カル者ナルヲ以テ此意義ヲシテ一目瞭然タラシメントセハ前條第二項ト照應スル文字ヲ用ヒサル可ラス故ニ但以下ナル「第十條制限以上ノ」云云ハ宜ク「坑業土工用ノ爲メ特ニ多額ノ」云云ト修正スヘシ以上二個ノ修正ハ一時ニ之ヲ提出セハ或ハ賛成者中一ハ同意ナルモ一ハ不同意ナルヨリ起立ヲ表スル能ハス遂ニ兩者共ニ成立セサル如キ恐れ有レハ本條ノ取決ハ二回ニ分タンコトヲ請フ因テ今先ツ第一ノ修正説ヲ提出ス

○議長 各官ニ告ク第二十條ヲ朗讀スルノ際ニ「火藥」ノ下ニ「類」ノ字ヲ付セサリシハ前條ノ修正ハ本條ニマテ及ヒシト思考セサルニ出テシナリ然レトモ其修正ハ内閣委員モ同意ナルコトヲ明言シタレハ朗讀ノ誤脱ト做シ既ニ「類」ノ字ヲ付セリト看ヨ

○五十八番 東久世通禧 「其他職業」ノ文字ヲ加フルハ最モ至當ナリト信スレハ賛成ス

○議長 十六番ノ第一ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十一番 渡邊清 議長ハ本條ヲ二回ニ分チテ取決ス可シトスル十六番ノ請求ヲ許セル乎

○議長 然リ

○十一番 渡邊清 十六番ノ動議ヲ賛成ス

○議長 十六番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十四人

○議長 多數ナルヲ以テ「坑業土工」ノ下ニ「其他職業」ノ四字ヲ加フル修正ニ決ス

○十六番村田保 但書ハ原案ヲ以テシテハ全ク解ス可ラスト謂フニ非

サルモ意義稍ヤ疑シク且其文章ノ前條ト照應セサル缺點アリ因テ本官ハ「第十條制限以上」ノ七字ヲ削リ之ニ換ルニ坑業土工用ノ爲メ特ニ多額ノ十二字ヲ以テセントス此ノ如クセハ但書ハ前條第二項ヲ承ルコト明瞭ニシテ復タ疑議ヲ來ス無ラン賛成ヲ得テ問題ト爲ルヲ得ハ幸甚シ

○十八番神田孝平 縱使ヒ些少ナリトモ文章ノ整備スルハ最モ望ム所ナリ因テ賛成ス

○議長 十六番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○一番山口尙芳 本官ハ原案ヲ優レリト信ス何トナレハ既ニ「制限以上」ノ文字アレハ其特ニ多額タルハ明白ナレハナリ若シ尙ホ一層明白ナラシメントセハ「坑業土工用」ノ爲メ第十條制限以上ノ「云云」ト爲ササレハ十分ナラス現動議ハ稍ヤ分明ヲ缺ケリト思惟ス

○議長 各官聽取ヲ異ニスル懼レ有レハ書記官ヲシテ修正文案ヲ朗讀セシメン

書記官森山茂 朗讀

但坑業土工用其他職業用ノ爲メ特ニ多額ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指定スルコトアル可シ

○十六番村田保 只今書記官ノ朗讀セル修正文ハ本官ノ提出セル修正文ト相違セリ本官ハ「第十條制限以上」ヲ削リ「坑業土工用ノ爲メ特ニ多額ノ火藥類」云ト爲スニ在リ此誤錯ハ前回ノ發言ノ明瞭ヲ缺ケルニ出ツト思考ス故ニ此ニ再陳ス只今一番ヨリ原案却テ分明ナリトノ駁撃ヲ得シモ本官ノ見ル所ハ大ヒニ之ニ反ス元來但書ハ第十條ノ制限如何ニ關セス寧ロ專ラ同條第二項ノ坑業土工用ノ爲メ特ニ多額ノ火藥類ヲ要スル場合ニ繫ル者ト謂フ可シ故ニ原案ノ如ク制限以上ナル文字ヲ顯ハスノ要用ナキノミナラス強テ之ヲ置ケハ却テ第十條中他ノ制限以上ノ火藥類ニモ及フヤノ疑ヲ生セン一番ノ言ハ解ス可ラス

○十一番渡邊清 問題說ノ如クセハ文意晰然タルヲ得ン因テ贊成ス

○議長 發議盡キタリト認ムルヲ以テ決ヲ取ラン十六番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ十六番ノ修正ハ消滅ス

○議長 發議ナキヲ以テ第二十條第二十八條ハ可決ト認メ第二讀會ヲ畢リ直チニ第三讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

明治十七年十二月第三十一號布告火藥取締規則中左ノ通改正削除ス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用

ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工
其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量并使用ノ場所ヲ記
シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ
左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用 火藥 三百目 雷管 五百箇

船舶設備銃砲用 大砲一門ニ付 火藥 五十發分 導火管類 七十箇
小銃一挺ニ付 火藥 百發分 雷管 百五十箇

烟火製造用 火藥 五貫目

坑業土工其他職業用 火藥 二百貫目
劇發火藥 三十貫目

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量
并使用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受
ク可シ此場合ニ於テハ直ニ陸軍海軍兩省ヨリ火藥ノ拂下ヲ受

クルコトヲ得

○議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

其他職業

第二十條 坑業土工用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所
ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五
條ニ據リ管轄廳東京府ハ
警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限
以上ノ火藥ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ
其距離ヲ指定スルコトアル可シ

第二十八條中又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シノ十五字ヲ削除
ス

○議長 可決ト認メ第三讀會ヲ畢ル修正ノ理由ヲ具シ上奏セン散會

午前第十一時五分閉場

元老院會議筆記明治十九年十一月十二日

○第五百二十八號議案天保錢通用禁止期限延期ノ件第一第二第三讀會

議長東久世通禧

出席議員

- | | | | | | | |
|-------|------|-----|------|-------|-------|-------|
| 九番 | 八番 | 七番 | 六番 | 五番 | 四番 | 三番 |
| 中島 錫胤 | 長松 幹 | 西 周 | 林 友幸 | 榎村 正直 | 楠本 正隆 | 鍋島 直彬 |

十一番	渡邊	清
十二番	久我	通久
十四番	加藤	弘之
十五番	渡邊	驥
十六番	村田	保
十八番	神田	孝平
二十番	野村	素介
二十一番	福原	實
二十四番	小畑	美稻
三十一番	田邊	太一
三十二番	三浦	安

三十三番	伊集院	兼寬
三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十七番	岩村	定高
三十九番	楫取	素彦
四十二番	田中	芳男
四十四番	安藤	則命
四十五番	長岡	護美
四十六番	大久保	一翁
四十七番	河田	景興
四十八番	町田	久成

- 五十一番 中村 弘毅
- 五十二番 何 禮之
- 五十三番 岡内 重俊
- 六十番 中村 正直
- 六十一番 稅所 篤
- 六十三番 津田 出
- 六十六番 神山 郡廉
- 六十八番 由利 公正
- 六十九番 長谷部辰連

內閣委員番外 法制局參事官岩崎小二郎

午前第十時十分開場

○議長 第五百二十八號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀後ニ例ニ遵ヒ發議セヨ

書記官森山茂 朗讀

明治十七年十月第二十六號布告舊銅貨天保通寶通用禁止期限ハ更ニ明治二十四年十二月三十一日迄延期ス

○番外 一番岩崎小二郎 天保錢通用禁止期限ヲ延ルノ理由ヲ陳セン各位モ

知ル如ク天保錢通用禁止期限ハ明治十七年第二十六號布告ヲ以テ本年十二月ト定メ爾後其引換ニ着手シタレヒ充分ノ結果ヲ得ス今ヤ僅ニ一二箇月ヲ餘スニ過キサルモ到底期限内ニ引換ヲ完結スルヲ能ハス蓋シ其流通總額ハ大凡三百六拾壹萬圓ナルニ今日マテ交換ヲ終レルハ僅ニ壹百三拾三萬圓餘即チ流通總額ノ三分一ニ過キ

六
スシテ尙ホ貳百貳拾六萬圓ノ殘餘ヲ見ル即今都會ニハ其流通既ニ地ヲ掃ヒタルモ山間僻地ニ至テハ其通用貨幣ハ概子天保錢ヲ以テセル者ノ如シ本員今年賜暇中野州地方ニ漫遊セシニ彼ノ地方ニ於テ日常授受スル貨幣ハ概子天保錢ナリシヲ以テ大ニ困難ヲ被リタリ是レ決シテ本員ノ皮相ノ觀察ニ出ルニ非ス銀行ノ報告等ヲ檢スルモ天保錢ノ多ク山間僻地ニ流通セルヲ揭ケリ其原因タル全ク地方人民ノ普ク通用禁止布告ヲ知悉セサルニ在リテ今日ニ至テハ實ニ奈何トモスル能ハス元來天保錢ハ他ノ貨幣ニ比スレハ形體甚々大ニ重量極メテ多ク其運搬ニ不便ナルヲ以テ充分ノ歲月ヲ與フルニ非ザレハ之カ引換ヲ完結ス可ラサルヲ發見セリ故ニ閣議ハ斷然ニ明治二十四年十二月三十一日マテ延期スルニ決セリ且十七

年十月ニ本年十二月限り天保錢通用ヲ禁止スル旨ヲ布告セル當時ニ在テハ紙幣ノ流通額尙ホ多カリシヲ以テ速ニ天保錢ノ通用ヲ止ムルヲ要セシモ今日ニ至テハ既ニ然ラス故ヲ以テ假令ヒ延期ヲ爲スモ敢テ人民ヲシテ奇異ノ感覺ヲ生セシメサル可キヲ信ス請フ各官ノ此旨趣ヲ領シテ速ニ議定センヲ

○三十二番^{三浦安}

本官ハ番外一番ノ陳述ニ關シテハ毫モ異見ヲ有セス然ルニ數年以前マテハ戶長等ヨリ普チク布告布令ヲ人民ニ知悉セシメシモ近來ハ官報ノ發行ニ因テ單ニ揭示スル等ニ止ムルカ故ニ假令ヒ重要ノ法令ヲ發布スルモ人民ノ之ヲ知悉スル甚々尠ナキカ如シ天保錢通用禁止期限ノ如キモ今日ニ至リ之ヲ改ムルヲ觀レハ亦其前布告ノ民間ニ普及セサルニ因ル者ト謂ハサルヲ得ス故ニ

現今ヲ以テ將來ヲ推セハ明治二十四年マテ延期スルコトヲ發令スルモ亦普子ク其期限ヲ知悉セシムルニ難カラシム因テハ主務大臣ヨリ戸長ニ令シテ山間僻地ノ人民ニ至ルマテ普子ク知悉セシメンコトヲ望ム

○十一番 渡邊清

本案ニ對セル内閣委員ノ辯明ハ之ヲ領スルモ只今ノ陳述ノミニテハ賛成スル能ハス明治十七年第二十六號布告ヲ發スル時ニ在テハ内閣委員ハ天保錢ノ人民ノ授受ニ最モ不便ナルヲ以テ之ヲ引換サル可ラスト陳辯シタルヲ以テ本官ハ其然ル可キヲ信シテ賛成ヲ表セシニ何ソ圖ラン今日ニ至リ其引換ヲ爲シタルハ流通額ノ三分一二過キスシテ山間僻地等ニ於テハ却テ天保錢ヲ便ナリトスル如キノ景況ナリト云フ是レ甚タ怪訝ニ堪ヘス本官以爲ラ

ク假令ヒ延期スルモ通用期限内ニ在テハ其流通ノ平常ニ異ナラサルヲ以テ到底引換ヲ完結スル能ハサル可キニ因リ其延期ヲ止メ納税ノ場合ニ限り戸長役場等ニ於テ之ヲ處辨セハ甚シキ支障ヲ見スシテ悉ク收回スルヲ得ン又假令二十年一月ヨリ其通用ヲ禁止スルモ之ヲ八厘ニ兌換スルヲ得ヘキヲ以テ本案ノ如ク明治二十四年十二月三十一日マテ延期スルモ本年十二月ヲ限り通用ヲ禁止スルト差異ヲ見サラン元來貨幣通用禁止期限ノ如キハ政府ノ信用ニ關スルヲ以テ之ヲ改ムルハ甚タ穩當ナラス故ニ十七年第二十六號布告ヲ維持シ若シ好果ヲ得ル能ハサレハ期限ヲ定メスシテ單ニ當分延期スト公告スルヲ要ス他ニ延期ヲ必要スル理由アルヤハ知ラサレモ只今内閣委員ノ陳辯セル所ヲ以テシテハ未タ本案ヲ發スルノ必

要ヲ見サルナリ

○外一番岩崎小二郎

十一番ハ政府一旦期限ヲ定メタル以上ハ之ヲ改メサルヲ要スト云ヘリ實ニ其言ノ如シ然ルニ果シテ社會ノ經濟ニ害ストセハ斷行主義ニ出サルヲ得サルモ其斷行主義ヲ用フルニハ事ノ便否ト緩急トヲ量ラサル可ラス即チ天保錢ノ如キ其通用ノ實ニ社會ノ經濟ニ害ストセハ宜ク斷行主義ヲ用フヘキモ此事タル決シテ然ラス都會ノ人民ハ視テ惡貨幣ト爲シテ之ヲ他方ニ驅逐セントスル情勢タリシヲ以テ彼レ既ニ跡ヲ都會ニ絶テルモ山間僻地ニ於テハ毫モ之ヲ嫌忌セサル者ノ如シ然ルヲ若シ十七年第二十六號布告ニ照シテ本年十二月限り通用ヲ禁止セハ俄ニ山間僻地ニ流通セル貳百貳拾餘萬圓ノ天保錢ニ換ルニ新銅貨ヲ以テセサルヲ得ス且

之ヲ爲サンニハ官民共ニ非常ノ混雜ヲ致シ許多ノ費用ヲ擲タサルヲ得ス今日以前ニ交換ヲ求メタル數額ハ極メテ稀少ニシテ多クハ納税ニ際シ引換ヲ爲スヲ得ルナレハ到底急劇ノ處置ヲ以テ其引換ヲ完結ス可キニ非ス試ミニ既往ノ經驗ニ照スニ十七年第二十六號布告發布後ノ二箇年間ニ壹百三拾餘萬圓ヲ引換ルヲ得タリトセハ殘餘ノ貳百貳拾八萬圓ヲ引換ルニハ到底四箇年ヲ要セサル可ラス若シ急ニ之ヲ禁止セハ第一ニ其運搬ニ不便ヲ生セントス然レモ社會ノ經濟ニ害セハ費用ト手續トニ關セスシテ斷行主義ヲ取ル可キモ前陳ノ如ク決シテ害ヲ與フル無キヲ以テ本案ノ如ク延期スルヲ得タリトス又十一番ハ期限ヲ改ムルハ政府ノ信用ニ關スト云フモ當初政府ノ都合ヲ以テ期限ヲ定メ而シテ其期限内ニ事業ヲ完結ス

ル能ハサル爲メニ延期スルハ決シテ信ヲ人民ニ失スル無シ況ンヤ
 延期ニ因テ人民ニ便ヲ與フルヲ蓋シ十七年第二十六號布告ニ照
 シテ本年十二月限リト定マル以上ハ假令其期限ヲ過キテ尙ホ價格
 ヲ失セサルモ或ハ彼ノサイトリ輩ノ良民ヲ煽動シテ之ヲ五厘若ク
 ハ四厘ニ買集ムル等ノ患ヒアルヲ以テ切ニ本案ノ如ク決定センコ
 ヲ望ム若シ夫レ三十二番ノ注意ハ本案ノ復命ニ際シ内閣ニ具申ス
 可キナリ

○六番 林友幸

本案ヲ賛成ス某議官ハ本案ヲ發スルノ不妥ナルヲ喋辯
 スレモ本官ハ若シ期限ヲ縮メハ不都合ヲ生ス可キモ之ヲ延ルハ毫
 モ不都合ヲ生セサル可キヲ信ス本案ハ畢竟人民ノ利便ヲ圖ルニ外
 ナラサルナリ

○十八番 神田孝平

本官ハ本案ヲ看テ甚シキ支障ヲ致サ、ル可シト信シ
 テ之ヲ賛成ス然レモ内閣委員ノ説明ヲ聞キ少シク感觸セル所ヲ陳
 辯セン抑モ本案ヲ發スルハ決シテ策ノ得タル者ニ非サルヲ以テ舊
 ノ如ク本年十二月限リ禁止スト爲シ而シテ當分ノ間ハ納稅ニ限リ
 天保錢ヲ用フルヲ許サハ稍ヤ可ナラン蓋シ若シ本案ヲ施行セハ引
 換ヲ爲セル天保錢ハ一旦銀行ニ入ルモ銀行再ヒ之ヲ出ス可キヲ以
 テ假令ヒ明治二十四年ニ至ルモ引換ヲ完結スル能ハサラントス故
 ニ本官ノ意見ノ如クセハ大ニ實際ニ便ナラント信スルヲ以テ聊カ
 之ヲ吐露ス

○議長 發議既ニ盡キタルヲ以テ第一讀會ハ此ニ畢ル

○外一番 岩崎小二郎 願クハ引續キ第二第三讀會ヲ開カンコトヲ

○議長 内閣委員ノ請求ヲ許ス可シト思考スル者ハ起立セヨ
起立者三十人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

明治十七年^{十月}第二十六號布告舊銅貨天保通寶通用禁止期限ハ更ニ
明治二十四年十二月三十一日迄延期ス

○十一番 渡邊清 内閣委員ハ頻リニ斷行主義ト云フモ其斷行トハ果シ
テ如何ナル事ヲ謂フカ十七年十月ヲ以テ十九年十二月限り天保錢
ノ通用ヲ禁止スト布令シ其禁止ノ期限ニ至リテ之ヲ禁止スルニ何
ソ斷行ノ語ヲ用フルヲ要セン天保錢通用禁止期限ノ如キ單ニ之ヲ
考フレハ敢テ重大ノ關係ヲ有セサル如クナレモ貨幣通用期限ヲ伸

縮スルニハ充分ニ注意セサル可ラス内閣委員ハ期限ヲ延ルハ敢テ
妨ケ無ル可シト云フモ既ニ之ヲ延ルヲ可トセハ之ヲ縮ムルモ亦可
トスルニ至ラン故ニ本官ハ本案ヲ發セス十七年第二十六號布告ヲ
維持シテ以テ地金引換法ヲ施スノ得策タルヲ信ス且既ニ十七年ニ
於テ十九年十二月ヲ期限ト定メタル以上ハ既ニ其引換ヲ爲スニ充
分ナル新銅貨ヲ準備ス可キハ必然ナレハナリ

○議長 十一番ニ問フ廢案說ヲ提出シタルヤ

○十一番 渡邊清 然リ

○十八番 神田孝平 賛成ス其趣旨ハ發議者ト異ナルモ十七年第二十六號
布告ヲ存シテ便宜ノ處分ヲ施サンコトヲ望ム

○議長 十一番ノ發議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十二番^{三浦安} 十一番ノ廢案說問題ト爲レルヲ以テ聊カ一辯セン
 十一番ノ說ノ如ク假令ヒ納稅ニ限り天保錢ヲ以テスルヲ許スモ亦
 其期限ヲ定メサル可カラス又一旦發令セシ所ハ之ヲ決行スルヲ要
 スト云フモ是レ概論ス可キニ非ス本案ノ如キ施政上ニ利便スル者
 ナレハ敢テ非難スルヲ須ヒス假令ヒ納稅ニ天保錢ヲ充ルヲ許シ若
 クハ地金ノ價直ヲ以テ通用スルヲ許スモ仍ホ通用ヲ禁止セサルト
 一般ナレハ強テ本案ノ發布ヲ否視スル理由ヲ見サルナリ本官ハ以
 爲ラク明治二十四年ニ至リ尙ホ引換ヲ完結スル能ハサレハ更ニ延
 期スルモ妨ケ無シト十一番ハ既ニ禁止期限ヲ本年十二月ト定メタ
 ル以上ハ其引換ヲ爲スニ充分ナル新銅貨ノ準備アル可シト云フモ
 本案ハ決シテ此事ニ因由スルニ非ス全ク施政ノ便宜ヲ圖リ併セテ

人民ノ利便ヲ主トセル者ナルヲ信ス故ニ必シモ前令ヲ改ム可ラス
 ト論難スルヲ要セサルナリ

○十六番^{村田保}

本官ハ初メ本案ヲ觀テ大ニ疑ヲ懷キ十七年一月ノ大
 藏卿ノ上申書ニハ新銅貨壹百四拾萬圓ヲ鑄造シ同年十月ヨリ二箇
 年間ヲ期シテ毎月八九萬圓ヲ天保錢ト交換スルノ豫定ナリシニ本
 案ノ如ク二十四年十二月マテ延期セハ其延期年月ノ當初ニ定メタ
 ル豫定期年月ヨリモ長キヲ以テ甚タ奇異ノ感ヲ生シ大藏大臣ニシテ
 尙ホ目算ヲ誤ラハ又更ニ延期スルモ知ル可カラス且維新以來百事
 舊物ヲ更新セシニ拘ラス天保錢ノ驅除法ノミヲ遲緩ニ付シタルハ
 甚タ怪訝ニ堪ヘサル所トス本官試ミニ此ノ如キ延期ノ事例ヲ搜索
 シタルニ石油取締規則ノ實施期限ヲ改メタルノ外ニハ別ニ其事例

ヲ見ス故ニ本官ハ本案ニ對シテ修正說ヲ提出セント思惟セシニ内閣委員ノ辯明ヲ聞キテ大ニ本案ノ可ナルヲ知り繼然之ヲ賛成スルノ意ニ決セリ抑モ十七年ニ於テ大藏卿ハ十九年十二月限り天保錢ノ引換ヲ畢ラント豫期セシモ其引換ヲ得タルハ僅ニ壹百三拾三萬圓ニシテ殘餘ノ貳百貳拾六萬圓ハ未タ引換ヲ得ス事實斯ノ如クナレハ延期年月ノ長キモ已ムヲ得サルノミ過去ノ二箇年間ニシテ僅ニ流通總額三分一ヲ引換タル以上ハ殘餘ナル三分二即チ現今流通額ノ引換ヲ畢ルニハ此比例ヲ以テ延期セサル可ラス然レモ若シ此事ニシテ社會ノ經濟ニ害セハ本案ヲ發スルハ素ヨリ不可ナルモ毫モ社會ノ經濟ニ害セス且財政ノ運轉ヲ圓滑ナラシムルヲ得ントス斯ノ如キ事件ハ實際ノ經驗ニ因テ處理スルヲ要ス故ニ理論上ニ於

テハ是認セサルモ實際上ノ經驗ニハ勝ツ能ハサルヲ以テ本官ハ原案ニ左袒シ廢案說ニハ賛成ヲ表セサルナリ

○議長 十一番ノ廢案說ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者二人

○議長 少數ニシテ消滅ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者三十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ引續キ第三讀會ヲ開キ朗讀ヲ略ス

○議長 發議ナキヲ以テ可決ト認メ第三讀會ヲ畢ル例ニ仍リ上奏セ
ン散會セヨ

午前第十一時二十五分開場

元老院會議筆記 明治十九年十一月十五日

禁傍聽

○第五百二十九號議案 徵兵令中改第一第二第三讀會

議長 東久世 通禮

出席議員

- | | |
|----|-------|
| 一番 | 山口 尙芳 |
| 二番 | 伊東 祐磨 |
| 四番 | 楠本 正隆 |
| 五番 | 榎村 正直 |
| 六番 | 林 友幸 |
| 七番 | 西 周 |
| 八番 | 長松 幹 |

九番	中島	錫胤
十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十四番	加藤	弘之
十六番	村田	保
十八番	神田	孝平
二十番	野村	素介
二十一番	福原	實
二十四番	小畑	美稻
二十八番	黑田	清綱
三十二番	三浦	安

三十三番	伊集院	兼寛
三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十六番	橋口	兼三
三十八番	津田	真道
三十九番	楫取	素彦
四十二番	田中	芳男
四十五番	長岡	護美
四十六番	大久保	一翁
四十七番	河田	景與
四十八番	町田	久成

- 四十九番 伊丹 重賢
- 五十一番 中村 弘毅
- 五十二番 何 禮之
- 五十三番 岡内 重俊
- 五十四番 調所 廣丈
- 五十六番 官本 小一
- 五十九番 渡 正元
- 六十番 中村 正直
- 六十二番 壬生 基修
- 六十三番 津田 出
- 六十五番 坂本 政均

- 六十六番 神山 郡廉
- 六十八番 由利 公正
- 六十九番 長谷部辰連

内閣委員 外番 法制局參事官曾禰 荒助

午前第九時四十五分開場

○議長 本日ハ第五百二十九號議案第五百三十號議案ノ第一讀會ヲ
開ク先ツ第五百二十九號ヲ議題ト爲ス書記官朗讀ノ後例ニ從ヒ討
議セヨ

書記官 森山 茂 朗讀

明治十六年 十二月 第四十六號布告徵兵令中左ノ通改正追加シ明治二
十年四月一日ヨリ施行ス但第八條ニ追加ノ項ハ直ニ施行ス

○番一 番曾補
外 荒助

此改正案ノ旨意ハ各官ノ明カニ領會スル所ナランモ
例ニ仍リ其理由ノ大略ヲ述ン第八條第二項ノ次ニ一項ヲ加ヘタル
ハ現今對馬島ノ如キ一島内ヨリ兵卒三四人ヲ出タスノミ且其島地
ニ居ルニ非ス後來常ニ三四人ヲ出スニ過キスト爲セハ是レ其島地
ヲ守衛スルニ足ラサルナリ故ニ此一項ヲ加ヘテ全島ノ壯丁ハ悉ク
之ヲ兵役ニ充テ警備隊ト爲セリ此ノ如クシテ全島ノ壯丁ヲ悉ク兵
役ニ服セシムルニ因リ其在營年限ハ本則ノ三年ヲ縮メテ一年以内
ト爲シ以テ權衡ヲ得セシメリ第十一條以下數條ノ下ニ及ヒ文部大
臣「云云ノ十九字ヲ加ヘシ理由タル第一ニ世道漸ク開ケ文運日ニ進
ムニ隨ヒテ私立學校ト雖モ其規則ノ整備ナル其授業ノ適切ナル殆
ント官立府縣立學校ト比肩シテ慚色ナキ者亦少ナカラス然ラハ則

チ其生徒ノ兵役ヲ猶豫ニ付シ以テ學業ヲ成就セシムルハ固ヨリ時
宜ニ適スルニ由リ第二ニ陸軍ノ兵卒ハ年ヲ逐テ多キヲ加ヘ且年年
ニ後備兵ヲ増スニ至ルモ士官ハ乏キヲ告ルヲ以テ此改正ニ依リ漸
次ニ士官ヲ増サント要スルニ由ル其他入營調査ノ時期ニ改正ヲ加
ヘタル理由ハ從前ハ兵數少ナキヲ以テ其調査モ速ニ終了セシモ豫
備後備ノ兵數ハ年ヲ逐テ増加シ其調査ノ時期モ沍寒ノ候ニ向フヲ
以テ爲メニ許多ノ費用ヲ要セサルヲ得ス且陸軍ノ便否ヨリ之ヲ言
ヘハ兵士ヲ訓練スルハ暄暖ノ時節ヲ宜シトシ沍寒ノ時節ニ於テハ
復習等ニ困難ヲ感スル少ナカラス又豫備兵後備兵ノ復習ハ一月二
月ヲ期ト爲スヲ以テ北陸諸國ノ如キハ積雪未タ融解セス此際ニ於
テ復習ヲ行フヤ兵數少ナキハ猶ホ可ナレモ多ケレハ則チ其困難

タル更ニ大ナリ又地方ノ情狀ヨリ之ヲ言ヘハ兵卒ノ入營スルハ農事繁忙ノ時ニ際シ而シテ其滿期歸郷スルヤ亦田功煩劇ノ節ニ會フ然ルニ日久シク靴ヲ穿テ銃ヲ肩ニセシニ俄ニ草鞋ヲ履ミ耒耜ヲ手ニスルハ恐クハ耐ユル能ハサラン且ヤ從前入營復習ノ時期ハ舊曆法ニ依テ定メタル者ニシテ曆法改正以來依然從前ノ時期ヲ更定セサレハ甚タ便宜ヲ失フ故ニ此ノ如ク改正セシナリ各官之ヲ領セヨ

出席

三十一番 田邊 太一

同

四十一番 穴戸 璣

○四番楠本正隆 內閣委員ノ説明ニ因テ此改正案ノ旨意ノ諸島嶼ニ警備隊ヲ置キ其在營ノ期限ヲ定メ及ヒ官立府縣立ノ學校ト同等ナル學校ノ生徒ノ兵役ヲ猶豫スルニ在ルヲ知ル抑モ先年徵兵令議案ヲ下

付セラレシヤ學校生徒ノ事ニ關シ本官ノ意見ヲ陳述セル有リシニ今此改正タル本官ノ意見ニ合スルヲ以テ固ヨリ異議ヲ唱ヘス諸島嶼ノ警備ニ至テモ頗ル目今ノ形勢ニ適當スト考フレハ是亦賛成セサルヲ得ス但一事ノ質問ヲ要スル有リ島嶼ノ壯丁トハ徵兵年齡ノ者ヲ指スヤ單ニ壯丁ト言ヘハ年齡ヲ區別セサルニ似タリ又諸島嶼ニ警備隊ヲ置クハ固ヨリ已ムヲ得サルナランモ之ヲ徵兵令中ニ入ルルハ失當ナルヲ覺フ此警備隊ナル者ハ徵兵令外ニ屬スルヤ其處分分明ナラサレハ內閣委員ノ説明ヲ煩ハス

○曾稱 一番荒助 四番議官ノ質問ニ答ヘン徵兵令第八條第二項ノ次ニ此一項ヲ添タルハ少シク突出ニ似タルモ本項ノ壯丁トハ徵兵適齡者ヲ指スナリ且徵兵適齡ト雖モ其身材ノ合格ナラサル者及ヒ第十

七條ニ入ル可キ者ハ固ヨリ本則ニ依リテ島民ニモ施行ス又其服役年限ハ常備三年後備五年ニシテ内地ノ人民ニ施行スル年限ト異ナラス只其内地ト異ナルハ徵集人員ヲ定メサル一事ナリ内地ハ人員夥多ナルヲ以テ一縣ニ若干人ト限定スルヲ得ルモ島地ハ人員寡少ナルヲ以テ然スル能ハス故ニ凡ソ兵役ニ耐ル者ハ悉皆之ヲ徵集シ而シテ其在營期限ハ三年ト爲サスシテ一年以内ト爲セリ是亦内地ト異ナリトス又其島嶼ニ在テ兵役ニ服スルモ技藝ニ熟達スル者ハ第十一條ノ恩典ヲ受ルヲ得ルハ素ヨリ内地ニ同シキナリ

○十四番加藤弘之「第十一條」云云ノ下ニ「及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校」ナル十數字ヲ添タルハ尤モ時宜ニ切ナリ今日ニ至ルマテ學生ニシテ兵役猶豫ノ恩典ヲ蒙レルハ只官立府縣立學校ノ生

徒ノミ其他ハ高等ノ學科ヲ教授スル學校ノ生徒ト雖此恩典ニ與カルヲ得ス當時本院ニ於テ其公平ナラサルコトヲ論シタリト聞クモ事體ノ已ムヲ得サルヲ以テ遂ニ現行法ニ一定セシナリ然ルニ只今内閣委員ノ言ヘル如ク二箇ノ原因ヨリシテ遂ニ此改正ヲ促スニ至リシハ本官ノ尤モ欣悅スル所ナリ但本官ノ少シク怪訝スルハ文部大臣ニ於テ認ムルノ一事ニ在リ其認ムルト云フニハ一定ノ標準ヲ存スルヤ果シテ然ラハ現今私立學校ニシテ此特許ヲ受ル者ハ大凡ソ若干ナルヤ詳細ナル調査ヲ聞カント欲ス顧フニ私立學校ノ生徒ニ恩典ヲ與フルハ甚タ時宜ニ適スルモ其方法ノ何如ハ利害ノ由テ分ルル所ナレハ尤モ此點ニ注意セサル可ラス私立學校ニシテ認可ヲ受ル者ノ標準ハ何クニ在ルヤ